

平成27年3月31日



仙台市市民活動サポートセンター 年間報告書（平成26年度）

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

はじめに

1 総括

2 場の提供

- 2-1 貸室、フリースペース
- 2-2 市民活動シアター
- 2-3 共同事務室
- 2-4 ロッカー、レターケース
- 2-5 パソコン、印刷機

3 情報の収集・提供

- 3-1 情報掲示等利用
- 3-2 団体情報の蓄積
- 3-3 市民活動団体への情報提供
- 3-4 図書の貸出
- 3-5 サポートセンター情報の発信

4 相談・問合せ対応

5 交流・連携・その他

- 5-1 外部組織との連携
- 5-2 会議・研修
- 5-3 視察・見学対応
- 5-4 防災避難訓練
- 5-5 施設維持管理

6 資料編

- 資料1 サポートセンター年間行事
- 資料2 主な項目のサポートセンター利用状況推移
- 資料3 情報関連業務利用状況推移
- 資料4 市民活動共同事務室使用状況一覧
- 資料5 貸室利用状況（部屋別集計）
- 資料6 貸室使用時間（曜日・時間別集計）
- 資料7 利用団体分野別集計
- 資料8 団体情報ストック数 分野別集計
- 資料9 図書資料分類別冊数
- 資料10 ホームページアクセス件数集計表
- 資料11 展示スペース利用状況
- 資料12 サポートセンター通信「ぱれっと」発行状況
- 資料13 相談・問合せ対応記録集計表
- 資料14 サポートセンター視察・見学・取材対応報告
- 資料15 サポートセンター組織図

7 事業報告

- 人材育成事業
- 交流促進事業
- 誘導啓発事業
- その他事業

1. はじめにー総括ー

協働のまちづくりに向けてー市民力を引き出す取組みー

震災から4年が経過した本年は、復興公営住宅の建設や地下鉄東西線開通に向けた動きなどが本格化した。その中で当センターは、市民活動への誘導啓発を中心に、地域づくりやまちづくりの担い手の掘り起こしを行った。

一方、国連防災世界会議のパブリックフォーラム「市民協働と防災」テーマ館としても機能し、市民力の発信や連携に向けて多面的に取り組んだ一年であった。

平成26年度の基本方針

多様な市民の地域や社会の課題解決に向けた想いや行動が、連鎖する動きに焦点を当てた施設運営を行う。

重点項目

- (1)まちの担い手への働きかけ
- (2)まちの担い手同士の連携
- (3)設立15周年事業

平成26年度の取り組み 成果と課題

以下、本年度の支援の重点項目に従い整理した。

(1)まちの担い手への働きかけ

市民力の裾野拡大のために、市民活動の顕在層と潜在層をつなぐ取り組みを実践するとともに、市民活動者やNPO法人の組織運営力向上や課題解決力向上に向け、人材育成に取り組んだ。

①誘導啓発事業

トークイベントやお試し体験、市民ライター講座などを通じて、市民活動に触れる機会を提供した。また、市民活動の情報を流通させるため、誘導啓発事業から生まれた事例などをまとめたレポートを発行した。

②人材育成事業

実施事業の成果物として冊子やパンフレットを制作し、対象に合った配布先などを開拓した。特に「市民活動の始め方続け方」は、当センターに寄せられる相談への回答を、担当課と協議しながらコンパクトにまとめたものとなった。講座や相談会も「広報」「会計」という、利用者ニーズに合わせて実施した。

成果

誘導啓発事業では、事業をきっかけに1団体が発足、また16名の個人の方が活動を開始した。それらの事例を冊子にまとめた事で、事業に直接参加していない方に対しても配布ツールができ、今後の波及効果が期待できる。また、市民ライター講座の受講者が、防災世界会議の情報ボランティアに6名参加するなど、事業実施から活動フィールドへつなぐまでを丁寧に実施した事が成果へとつながった。

人材育成事業では、組織基盤形成に関する事業について、仙台市内に主たる拠点を構えるNPO法人全団体に郵送案内を行うなど、利用者層の掘り起こしを実施し、新たな利用者を開拓することができた。NPOいろは塾では、講座実施後に24件の活動相談（全受講者59名）が生まれた。

課題

誘導啓発事業では、実際に活動を始めた方は一部である。事業実施だけでなく、期間を置いて参加者への連絡を行うなど、アフターフォローを行う必要がある。

人材育成事業は、事業を実施するだけでなく、実施内容を編集し配布できるツール（例：お役立ち情報）を受講者以外にも提供するなど、事業の価値を高めていくことが必要である。

また今年度の利用者アンケートでは、「活動の広がり」「世代交代」「人材不足」「広報」「情報発信」が団体の課題とされていた。これは、仙台市内NPO法人調査と重なる結果であったため、それらに対応する事業を実施していく。

(2)まちの担い手同士の連携

骨プロ施設や地域機関、市民活動団体と連携し、地域や社会課題解決に向けた取り組みを行った。

①交流促進事業

地域ネットワーク等へ参加する地域連携、当センターが事務局を担う骨プロ連携、創業支援や若者ネットワークへの参画などのテーマ別連携など、多様な機関等との連携を図った。

成果

泉社会福祉センターや宮城野区中央市民センターなど行政機関を中心に、互いの事業への参加を行うなど関係性を深めることができた。他機関からは、当センターの相談スキルや事業ノウハウに注目されており、今後の関係性づくりのポイントが明らかになってきた。

課題

今年度は関係性づくりにとどまったが、今後は他機関と効果的な事業連携を実施しながら、多様な市民力の掘り起こしや、協働の取り組みの促進を行う必要がある。

(3)設立15周年事業

当センター設置15年にあたり、これまでに当センターを利用して、活動が発足・発展した事例集を発行した。

また年度末には、第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「市民協働と防災」のテーマ館として機能した。

①設立15周年事業

センター機関紙7月号として、ぱれっと15周年特別号を発行（開館は1999年6月30日）。当センター利用者のストーリーと、団体の段階に応じて当センターが実施した支援状況をまとめることができた。

②国連防災世界会議への協力

国連防災世界会議に向けて、機運を高めるための連続プレイベントを4ヶ月間にわたって実施。当日の4日間は、全33団体の企画、一日1,000名近くの来場者などが参加。また市民の防災意識向上を目指して、市民活動団体と共に4日間で延べ100名のボランティアコーディネートを実施した。

成果

15周年記念誌は、単年度の報告書では伝えきれない団体のストーリーをもとに、この15年間に渡る当センターの価値について可視化することができた。

国連防災世界会議への協力では、「市民協働と防災」というテーマを、市民活動団体やボランティア等の参画を通して体现し、多様な主体と共に大規模な企画を、安全かつ適切に運営することができた。

課題

15周年記念誌は、発行部数5,000部と通常より増刷したが、配布計画が不十分であった。現在は、仙台市職員研修や講座や視察の際に、当センターを利用することによる活動の変化をお伝えするツールとして活用している。

国連防災世界会議への協力では、プレイベント参加者が、当日に参加したかを測る指標などがなかった。また、イベントで高まった防災の機運を維持・発展させる取り組みを、今後戦略的に検討する必要がある。

2. 場の提供

2-1. 貸室、フリースペース

貸室とフリースペースを合わせた諸室の総利用件数は8,759件、総利用人数は62,738名だった。昨年度と比較すると件数・人数ともに110%と伸び、国連世界防災会議期間（3/9～3/20）を除いても伸長した。

諸室を利用した総団体数は、761団体（フリースペースを利用した個人のボランティアなども含む）であり、昨年度の793団体から32団体程減少した。

■貸室

	件 数	人 数
貸室計	3,249	49,033
フリー利用計	5,510	13,705
諸室計	8,759	62,738
対前年度増減率	110%	110%
前年度諸室利用計	7,989	57,034

国連世界防災会議期間（12日間）を除く、開館日数（323日）に対する研修室の使用率は年間平均92%程度であり、昨年度を2%上回り伸長している。セミナーホール（80%）以外は、研修室全てで、90%以上の利用率だった。

また、研修室1（93%、前年94%）以外は、前年を上回る利用率で、セミナーホールが前年70%台から今年度80%台、研修室5で前年80%台から今年度90%台と10～20名程度の会議室の使用の伸びとともに30名を超える会議室の利用需要が増える傾向にあった。

	件数	人数	使用率	前年度 使用率
セミナーホール	338	13,308	80%	78%
研修室1	597	4,887	93%	94%
研修室2	639	6,620	96%	96%
研修室3	503	4,481	94%	90%
研修室4	590	3,635	96%	94%
研修室5	471	8,460	91%	87%
小 計	3,138	41,391	92%	90%
市民活動 シアター	111	7,642	33%	26%
合 計	3,249	49,033		

たことがうかがわれる。

市民活動シアターも、昨年度87件から今年度111件と大幅に利用が伸びた。（市民活動シアターの詳細はP5を参照）。

曜日別、時間別の使用時間数では、昨年度同様に土日は午後の時間帯を中心に利用が高く、平日は午前・午後・夜間に利用が分散している。（資料6参照）

■フリースペース

		平成24年度	平成25年度	平成26年度
フリースペース	件	4,720	4,808	5,510
	人	13,481	12,002	13,705
前年度増減率	件	156%	102%	115%
前年度増減率	人	135%	89%	114%

事務用ブースや交流サロンなどのフリースペースは前年度比件数で115%、702件増、人数では、114%、1,703人増であった。件数、人数とも大幅に増加しており、貸室のみならず少人数での打ち合わせや事務作業など、利用団体の活動が活発になってきていることがうかがえる。

■総括

国連世界防災会議のテーマ館として3/9～3/20の12日間通常開館していないにも関わらず、貸室の利用、フリースペースの利用が、件数及び人数で全て前年度を10%程度上回る高利用率であった。

主な要因としては、「定期利用する団体が増えた」「利用する活動団体が拡大してきた」「新規利用の団体が増えた」などがあ
ると考えられる。

利用上位20団体の内訳

諸室を利用した761団体のうち利用回数が多い順に上位20団体を抽出すると、右表の通りとなった。

	団体数(a)
学生団体	5
国際交流	3
福祉・シニア	3
健康・スポーツ	3
その他(復興、社会教育など)	6
合計	20

2. 場の提供

2-2. 市民活動シアター

市民活動シアター（以下、シアター）の利用日数は年間110日、利用率は34%だった。一般来場者数、出演者や主催団体のスタッフ数を加えると、合計7,672名がシアターを利用した。

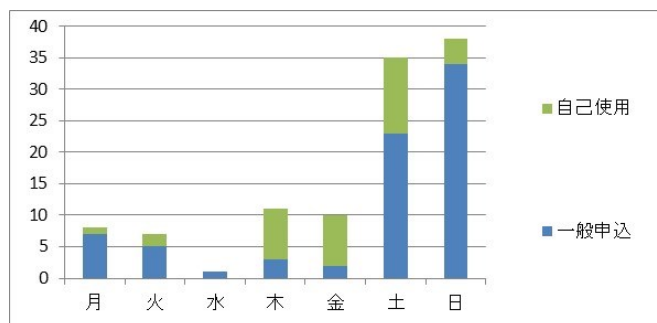
昨年度から比較すると件数では一般申込が昨年度より8件増加、自己使用も14件増加した。今年度は、国連防災世界会議を開館日に含めていないため、利用率も8%ほど増加した。

■曜日別利用率と利用件数

	月	火	水	木	金	土	日	年間
申込件数	8	7	1	11	10	35	38	110
内自己使用	1	2	0	8	8	12	4	35
年間利用率	16%	14%	4%	22%	20%	70%	75%	34%
前年度利用率	13%	4%	15%	12%	20%	62%	53%	26%

■利用属性と利用内容

利用者の属性は自己使用を除くと、NPO、愛好会が多かった。利用内容はシンポジウム・講演会、コンサートが多かった。



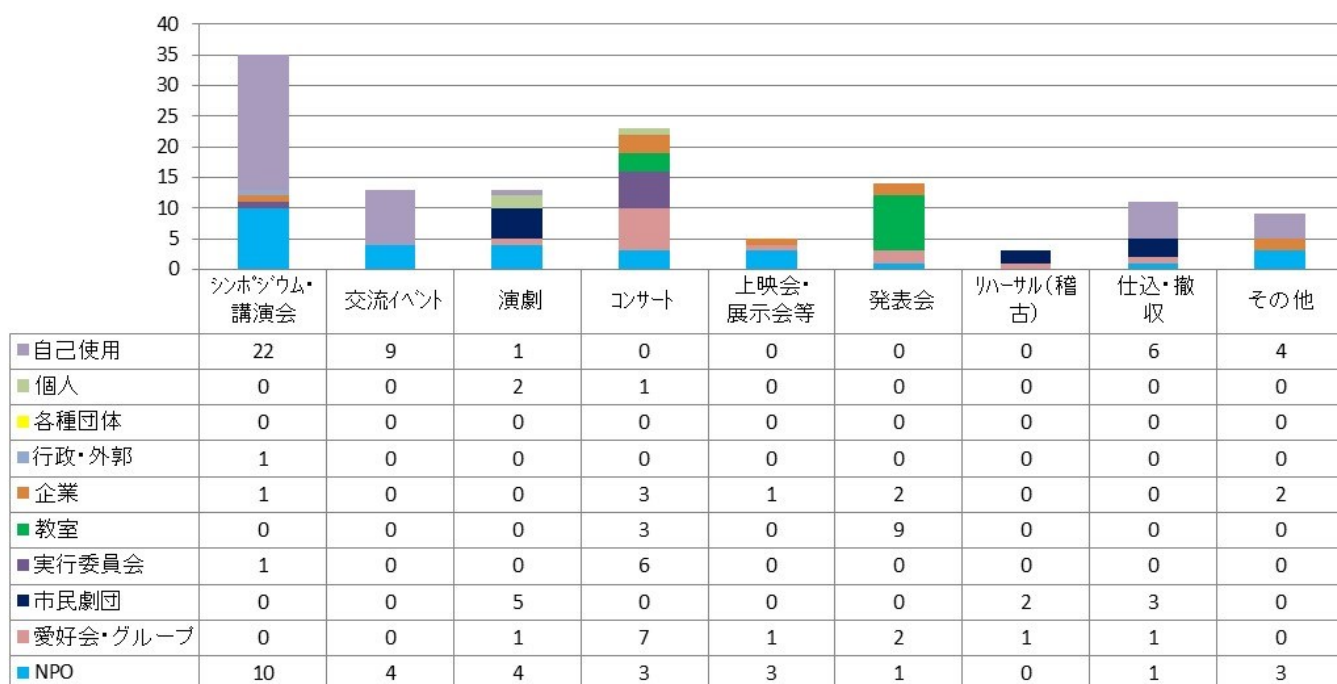
■総括

利用内容として主だったのは、例年通り教室・愛好会・NPOが行うコンサートや発表会が多く見られた。

また、今年度は地下鉄東西線開業プロジェクト「WE S C H O O L」や、仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」の会場で自己使用の利用が増加した。この中では、シンポジウム・講演会的なものから、交流会やワークショップなど多様な利用形態があった。

自己使用から、シアターの平場という空間を活用した多様な利用形態を提示できたと考えられる。

2014年度シアター利用団体と利用内容(複数回答)



2-3. 共同事務室(事務用ブース)

事務用ブースは、平成25年11月末で1団体が退去し、第15期中(平成26年8月末まで)は、6団体が入居。第16期(平成26年9月～)は、15期からの継続団体6団体に加え、新たに2団体が入居し、平成27年3月末現在、10ブース中9ブースが使用されている。開館以来のべ入居団体は70団体。

今年度も引き続き、入居団体が個々に持つ資源や情報を入居団体同士で交換するための「情報交換会」を実施した。

(1) 情報交換会

□平成26年10月3日(金)

- ・入居団体9団体の中8団体10名
市民協働推進課0名、(欠席)
サポートセンタースタッフ3名 参加
- ・入居団体活動紹介、情報交換・交流、サポセン事業の紹介etc

□平成27年2月6日(金)

- ・入居団体9団体の中9団体11名
市民協働推進課1名、
サポートセンタースタッフ3名 参加
- ・活動報告と今後の予定、情報交換・交流、国連防災世界会議の紹介etc

◆第16期事務用ブース入居団体◆

平成26年9月1日時点

- ・NO.1 NPO法人 みやぎ生涯学習指導・支援センター
- ・NO.3 認定NPO法人 IVY
- ・NO.4 日本勤労者山岳連盟宮城県連盟朋友会
- ・NO.5 公益財団法人 世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会
- ・NO.6 NPO法人仙台・みやぎ消費者支援ネット
- ・NO.7 公益社団法人 日本てんかん協会宮城県支部
- ・NO.8 子ども虐待予防センター仙台
- ・NO.9 一般社団法人 日本漆総合研究所
- ・NO.10 わしん倶楽部

2. 場の提供

2-4. ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースでは第16期(平成26年9月～平成27年8月)の募集を行った。

ロッカーの使用率は、大100%、中93%、小78%となった。ロッカーを最大3個まで使用できる運用を継続しているが、ロッカー大・中・小全ての使用率が、前年度より高くなっている。

レターケースの使用率は、58%で昨年度と変わらないが、取次件数は、3,326件で、前年度の3,388件から若干減少している。しかし、前々年度2,389件と比して平成25年度、26年度と取次ぎ件数は高く維持している。

前年度は、郵便の取次件数が大きく増加し、一方で、FAXの取次件数の減少が続いていたが、今年度は、FAXの利用頻度も増えている。

【活動報告書】

ロッカー、レターケース利用団体には年2回、事務用ブース利用団体には年4回活動報告書を提出していただいている。活動報告の提出状況では、団体の総会資料やチラシなどを活動報告書に添付するなどとして提出する団体が多く、市民への公開情報の質の向上を図ることができている。

ロッカー使用数

サイズ	設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均使用率
小	80	59	59	60	63	63	59	62	63	66	66	66	67	78%
中	28	24	24	24	24	24	28	28	28	28	27	27	27	93%
大	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100%
計	118	93	93	94	97	97	97	100	101	104	103	103	104	84%
平均使用率		79%	79%	80%	82%	82%	82%	85%	86%	88%	87%	87%	88%	

レターケース使用数

設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均使用率
168	98	98	99	99	99	94	94	97	98	98	98	100	58%
平均使用率	58%	58%	59%	59%	59%	56%	56%	58%	58%	58%	58%	60%	

レターケース取次件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均件数
郵便	455	405	218	213	236	129	308	245	209	336	151	189	3,094	258
FAX	34	21	21	3	3	11	26	33	13	11	9	47	232	19
計	489	426	239	216	239	140	334	278	205	347	160	276	3,326	277

2. 場の提供

2-5. パソコン、印刷機

(1) パソコン

今年度のパソコン利用は、1,194件で、その内訳はインターネット用260件、作業用934件であった。(無線LANの導入により持ち込みPCの件数はカウントしていない)

パソコン利用の全体件数は平成22年度3,125件、平成23年度1,624件、平成24年度1,457件、平成25年度943件と年々減少してきたが、今年度は、1,194件と前年の126%増となった。

平成26年4月より交流サロン（5F）に無線LANを設置し、平成27年1月には全館に無線LANを設置。ここ数年のスマートフォン・タブレット端末の普及や、Wi-Fiなど、個人のインターネットおよび通信環境が改善され、当センターでも環境整備が整った。しかし、有線LANの需要もあり5F交流サロンの提供も継続している。また、1F利用者用PC2台の利用も継続している。

■パソコン利用状況推移

(件)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
インターネット用	549	433	273	260
作業用	659	712	562	934
持込PC	416	312	107	—
合計	1,624	1,457	942	1,194

(2) 印刷機

印刷機利用は、利用件数は1,595件、利用枚数は1,258,520枚で、利用件数、利用枚数共に減少した。年々減少が続いている。

印刷物の内容は、イベント告知や団体紹介用のチラシ、会議資料、ニュースレター印刷などで、受付時の確認では、前年同様の利用内容。

■印刷機利用状況推移

	H24年度	H25年度	H26年度
利用件数(件)	1,876	1,675	1,595
利用枚数(枚)	1,445,588	1,256,828	1,258,520

■印刷物の内訳

(件)

	チラシ	ニュースレター	その他
4月	100	14	80
5月	89	13	87
6月	66	9	55
7月	71	16	44
8月	71	10	47
9月	81	16	62
10月	70	14	60
11月	56	11	40
12月	40	12	54
1月	32	18	51
2月	40	11	68
3月	39	9	45
計	755	153	693
前年計	778	183	738

※一度の印刷で、「チラシとニュースレター」というように複数の物を印刷する場合があるため、内訳の合計と左記の印刷利用件数は一致しない

3-1. 情報掲示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニューズレターなど情報掲示利用件数は、4,128件で前年度と比べると103%と微増した。

情報の種別でみると、ニューズレターについては昨年度を下回ったが、チラシ、ポスターは前年度を上回っている。

「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称：骨プロ)」利用件数は、今年度は微減したものの、昨年度、一昨年度と過去3年間800件以上の件数を記録しており、市民活動団体に浸透していることが伺える。

■情報掲示等利用件数

	H24年度	H25年度	H26年度
チラシ	2,292	2,357	2,514
ポスター	296	270	295
ニューズレター	1,333	1,376	1,340
計	3,921	4,003	4,149

■仙台に情報の背骨を通すプロジェクト利用件数

(通称：骨プロ)

	H24年度	H25年度	H26年度
年度計	861	895	839

■骨プロ参加施設(平成27年3月末時点 12施設)

- 仙台市市民活動サポートセンター
- 仙台市中央市民センター
- せんだいメディアテーク
- 仙台市青年文化センター
- エル・パーク仙台
- エル・ソーラ仙台
- 仙台市ボランティアセンター
- 仙台国際センター
- 仙台市子育てふれあいプラザ
- のびすく仙台 / のびすく泉中央 / のびすく長町南
- 戦災復興記念館

3. 情報の収集・提供

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報ストック数は県内外あわせ4,590団体で、前年度比102%と増加した。団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシ・ニューズレター・パンフレット等を保存し蓄積してきたもので、サポセン利用者を軸にした市民活動団体の情報である。これらのファイルは、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

■ 団体情報ストック数 分野別集計

(平成26年度累計蓄積数)

分野	情報利用 *1			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	536	12%	454	82
健康・医療・スポーツ	449	10%	377	72
環境	604	13%	420	181
まちづくり	562	12%	495	67
子ども・教育	588	13%	470	118
人権・ジェンダー	360	8%	254	106
国際交流・協力	360	7%	209	128
文化・芸術	656	14%	570	86
市民活動支援 *2	332	7%	100	232
その他	166	4%	132	34
計	4,590	100%	3,481	1,109
H24年度累計蓄積数	4,518		3,413	1,105
前年度比	102%		102%	100%

*1 情報利用: 団体情報の蓄積数

*2 市民活動支援の県内は東北とよみかえる

3-3. 市民活動団体への情報提供

サポートセンターでは、市民活動に役立つ情報をテーマ毎に編集した「市民活動お役立ち情報」を利用者向けに提供している。これは、館内のチラシラックに配架し、自由にお持ち帰りできるほか、ホームページからもダウンロードできるようにしている。

このサービスは必要なテーマだけ自由に選択できることもあり、好評である。今年度の発行枚数総数は昨年度と比較して160%と増加している。特に「チラシ・ポスターを置けるスペース」は167%と大きく伸びている。

これは施設の利用者が増加していることに伴い、新規利用者なども多くいたため、前年度より多くの資料を発行したと考えられる。また活動そのものの充実などを模索する中で、市民活動団体自身の情報発信を課題としている団体が多くあることがわかる。

No.	テーマ	H24 年度	H25 年度	H26 年度
1	NPOってなんだろう？	400	250	440
2	チラシ・ポスターを置けるスペース	250	360	600
3	市民活動団体が利用できる機材一覧	150	350	350
4	仙台市内ホールマップ	280	214	370
5	ボランティア相談窓口	200	200	400
6	助成金のいろは	200	300	420
7	規約の作り方	200	100	420
8	報告書の作り方	280	200	300
9	メディア活用大作戦	400	300	290
10	名義後援って、どうやって受けるの？	200	160	320
	合計	2,560	2,434	3,910

3-4. 図書の貸出

今年度の図書貸出件数は238件、貸出冊数は348冊と、昨年度とほぼ同数値であった。昨年度から引き続き、今年度もサポートセンター職員による図書のブックレビューを掲示している。このことが、一昨年度と比較して、貸出数の向上につながったことが考えられる。

■図書登録、貸出件数

	H24年度	H25年度	H26年度
登録者数(人)	57	54	77
貸出件数(件)	155	239	242
貸出冊数(冊)	243	365	348

3-5. サポートセンター情報の発信

サポートセンター情報の発信

より多くの方へサポートセンターの情報や市民活動に関する情報を届けるため、紙媒体とWEBを併用して情報発信を行っている。紙媒体・WEB媒体を通じて「分かりやすく、親しみやすい」と評判を得ている。特に紙媒体の「ぱれっと」は、市内他施設や他の市民活動支援施設から編集体制等の問い合わせを受けるなど、注目されている。

また、サポートセンターから発信された情報に触れた市民が来館し事業に参加する事例もあり、工夫しつつ地道に取り組んできたことが実を結んでいる。

(1) サポートセンター通信「ぱれっと」の発行

市民力の向上には、潜在的活動層の掘り起しと、活動実践者層へのエンパワメントを両輪で行っていかなくてはならない。今年度は、号により対象を分けて記事のテイストを揃えることにより、読者に対しては分かりやすく、サポセン側としては編集しやすい発行体制を試行した。

具体的には、通常号（4P）は、潜在的活動層を対象に、活動実践への誘導を目的として、NPOの基礎知識や参加のしかた、参加しやすい団体の紹介などを掲載した。年4回発行の増刊号（8P）は、活動実践者層向けに協働の事例紹介など、活動をより発展させたり、連携を促進させるための参考となる記事を掲載した。

また、多くの人に読んでもらえるよう、親しみのあるデザインを心がけたところ、「デザインが良い」「他の公共施設と違って良い」など、利用者や他県の支援施設スタッフから好評を得た。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関するお知らせを行った。

昨年度事業として改訂作業を実施。アクセス解析によると、改訂前は貸室などのハード面サービスのページはよく見られていたが、今年度は「イベント・講座」のページが上位になっており、改訂の効果が認められた。（資料10 参照）

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、仙台の市民活動情報などを掲載。ボランティア募集情報や復興関連情報など、速報性やニーズも意識しながら、ほぼ毎日更新している。

サポートセンター情報の入手先として、昨年度は

月	記事(件)	ビュー(件)
4月	33	31,462
5月	29	36,026
6月	27	36,283
7月	26	38,467
8月	26	40,254
9月	32	33,631
10月	26	33,654
11月	30	36,333
12月	28	39,637
1月	20	35,246
2月	18	32,474
3月	23	34,638
計	318	428,105

ホームページよりもブログが多かったが、今年度はホームページのリニューアルがあったためか、ブログのページビューは伸びなかった。

利用している「CANPAN」が月ごとに公表しているページビューランキングベスト100によると、毎月80位以上にランクインしている（最高：2014年5月32位、最低：2014年4月78位）。

(4) twitterの管理

休館日案内、ホームページ・ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるため運用している。

フォロワーの微増が継続し、2014年4月に1300人を超え、2015年3月末で1560人超となった。

4. 相談

1. 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の交換や経営相談など専門的な幅広い支援を行う。

2. 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施する。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや広報や事業計画、シニア層の個人に対するセカンドライフ相談など個別の事案に対して相談対応する個別対応がある。

3. 集計方法に関して

相談事業の集計は、職員の対応方法により対面、電話、その他の対応方法に分け、相談者属性として個人、NPO/公益法人、任意団体、行政、企業、その他に区別している。

相談内容は上述の3区分に加え、その他の項目を入れている。また、区分のうち③活動相談に関しては相談内容に応じ、市民活動基礎相談、活動立ち上げ・運営相談、市民活動専門相談、情報提供・調査その他の4項目に分け集計を取っている。なお、4項目全般に対して復興支援に付随する相談に関しては復興支援活動相談として、重複して集計している。

4. 成果 (参照：資料13)

●全般

本年は、新規施設利用者の増加に伴い相談件数が増加した。

本年度の相談事業の最大の変化は、施設の利用判断と施設サービスに関する相談の増加であり、新規利用団体が増加する傾向が続いている。サポートセンターの実施する事業や情報発信、他施設との連携事業により市民活動が活性化し、活動者の増加につながったものと思われる。

市民活動専門相談については、的を絞った相談会を実施することによりワンストップで解決につなげる効果的な相談を実施した。

相談方法に関しては、電話相談から対面相談へのシフトが継続しており7割強が来館相談となっている。

●相談者の背景

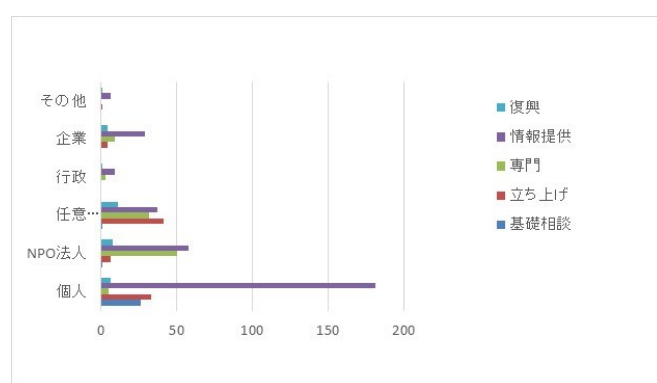
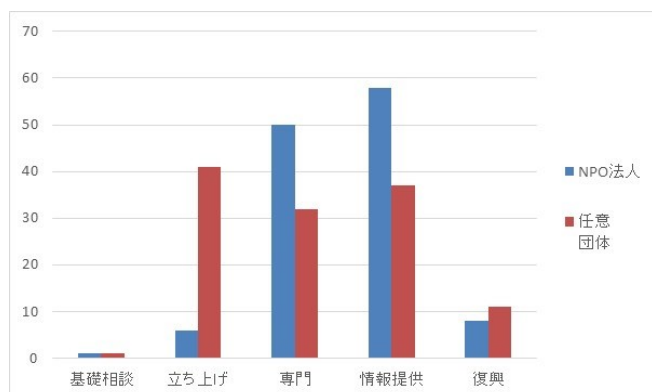
相談をされた方々は、個人や任意団体が多く、これは例年と同じ傾向にあった。

一方、顕著に表れた結果として、施設利用の新規の団体・法人の増加に伴い、利用相談が行われたことによりNPO法人や任意団体の相談件数が前年度よりも増えた。

●相談内容

施設利用を新規に行う利用相談が多かった。利用相談から専門相談につながるケースも見られた。

相談件数が個人や任意団体からの件数が多いこともあり、NPO法人の設立や運営相談、情報提供、実務的に活動を行う相談である市民活動専門相談の件数が多かった。



●相談の傾向

多種多様な相談が寄せられる中、大学生など若者の団体立上げや市民活動専門相談が多く見られた。継続的に相談対応し、若者の連携事業を実施したことなどが活性化につながった。加えて震災後立ち上げた団体が事業内容を発展させたい相談があった。局面が変化する中で活動内容や団体のあり方の見直しを行っており、資金調達、労務管理、事務局体制など団体経営の基盤強化に関する相談が寄せられた。

また、活動歴が長い団体に関しては、資金調達や新規事業開発、後継者育成など、団体個々の次の展開を目指した具体的な手法に関する相談が多く寄せられた。

そして、個人に関しては、主にシニア層が多いが、就労の場としての視点を含めた市民活動への参加に関する相談が多く寄せられた。

●平成27年度の取組に関して

幅広い分野で活動する市民活動団体・企業・地縁組織・行政・個人など多様な相談者が常時相談できる相談コーナーの資料整備などを図り、市民活動や協働を後押ししていく。

他機関・専門家と連携して市民活動団体の伴走型支援を行うことにより組織運営基盤を強化し、自立的な組織基盤を持った市民活動団体を育成する。

また、別途実施しているNPOいろは塾、活動力強化講座などとの連携を通じ、市民活動の参加者に対して常に自立的な活動を行なうことができる支援の場であることを目指す。



5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記のネットワーク会議に参加した。

○みやぎNPOプラザとの打合せ

開催日：2014年4月12日（土）

会場：みやぎNPOプラザ

内容：平成26年度事業内容についての情報交換会

○仙台市生涯学習支援センター座談会

開催日：2015年2月18日

会場：仙台市中央市民センター5F 会議室

内容：仙台市市民活動サポートセンターの機能と事業内容の説明、及び今後の仙台市生涯学習支援センターの事業に関する意見交換

○平成26年度まちづくり専門家交流会

開催日：2014年8月8日

会場：市役所本庁舎・第一会議室

内容：事務局による活動実績と専門家による活動報告及び、グループワークによる意見交換。

○「ボランティア・市民活動ネットワーク会議」

開催日：2014年10月15日、2015年3月5日

主催：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

会場：仙台市福祉プラザ

内容：ボランティアや市民活動の支援機関による情報共有、意見交換会。

○宮城高年齢者就労促進連絡会議

開催日：2015年1月26日

会場：仙台第4合同庁舎8F 共用会議室

内容：高年齢者雇用就業対策と今後の方向性について。

高年齢者就労総合支援事業及び生涯現役社会実現事業との連携について。

5. 交流・連携・その他

5-2. 会議・研修

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のように各種会議（打ち合わせ）を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度:1回／月

所要時間:約2時間／回

内容:管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○主任会議

開催頻度:2回／月

所要時間:約2時間／回

構成メンバー:センター長、副センター長、総務主任

内容:各部門・事業の進捗管理と、サポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング

開催頻度:2回／月

所要時間:1時間／回

内容:相談業務についての共有や研修。

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

○研修

各種研修へ随時参加

内容:外部研修では、NPO中間支援組織の新人

職員対象者への全国規模の研修のほか、会計基準やファシリテーションなどの研修に参加。また、内部研修としてはNPO中間支援組織に在職する職員ならば知識として知っておくべき、対人援助業務に関するもの、ファンドレイジング、協働、組織マネジメントについてなどのさまざまな研修を行った。

5-3. 視察・見学対応

今年度の視察対応は、26件、168名と昨年より減少傾向を見せた。

視察の目的としては、昨年同様に震災の復興事業に関わるものが多くを占めたが、被災地でのフェイズの変化にどう対応すべきか等の相談を伴う団体も見られた。

学生は、研究室単位でのフィールドワークのため、団体、個人共に、復興支援に関わる団体や、その団体が手掛けている支援事業内容についてのヒアリングを主たる目的とする内容であった。

行政関係者は、いわゆる「協働」による支援体制の構築や、事業の進捗についての調査を目的としたものが多くみられた。

また、「協働」についての調査を目的とした視察については、行政関係者と市民活動団体との合同チームによる来館もあって、昨年度に引き続き特徴的なところとして挙げられる。

さらに、下半期以降については、国連防災世界会議のテーマ館としての対応について、イベント内容等のヒアリングを受ける場面もあった。

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づき防災避難訓練を2回実施した。

実施月：平成26年10月8日（水）

：平成27年3月4日（水）

参加者：サポートセンタースタッフ

今年度は避難訓練に合わせ、A E D講習をスタッフ全員が受講した。また、避難経路の改訂をおこない、より実態に即した運用を開始した。館内掲示物や非常時館内放送に英文を追加するなど、外国人利用者の安全にも配慮した。次年度も、スタッフの防災意識のさらなる向上に努めていく。

5-5. 施設維持管理

1、漏水工事(研修室5及び市民活動シアター空調室)について

○期間：2015年1月13日(火)～2015年1月31日(土)

○工事内容

研修室5：建物北側よりゴンドラにて4階上部壁面の調査を実施した後、外壁塞パネルを取り付けた。

市民活動シアター：破損している建物北西部の側溝を解体撤去し、新たに側溝を設置した。

冬季期間の作業のため、雪害が懸念事項であったが、事故なく無事に完了した。

■平成26年度仙台市市民活動サポートセンター 年間行事

資料1

[illegible]

■主な項目のサポートセンター利用状況推移(平成26年度)

資料 2

		貸室 件数	貸室 利用者数	利用率(各 部屋平均)	フリースペース 利用件数	フリースペース 利用者数	印刷機 利用件数	印刷機 利用枚数	情報揭示 受付件数	パソコン 利用件数	相談 件数	相談人数	レターケース 取扱い件数	来訪者 件数	来訪者 人数	図書貸 出件数 ※	総利用 件数	利用者 総数
		a	a'		b	b'	c		d	e	f	f'	g	h	h'	i	A	B
平成11年度～21 年度計		29,279	382,398	80	25,109	97,730	22,432	20,231,865	35,249	22,765	10,641	12,160	39,756	994	3,839	0	186,209	496,127
平成22年度計		3,084	46,000	80	4,028	14,185	1,670	1,538,832	3,463	3,125	550	596	3,698	33	201	254	19,905	60,982
平成23年度計		2,959	43,287	78	3,027	9,987	1,713	1,669,297	3,173	1,624	741	815	3,230	25	100	142	16,634	54,189
平成24年度計		3,229	46,416	80	4,720	13,481	1,876	1,529,372	3,921	1,457	716	822	2,819	25	97	155	18,918	60,816
平成25年度計		3,181	45,032	81	4,808	12,002	1,675	1,431,310	4,003	943	832	925	3,388	53	102	238	19,121	58,061
平成26 年度	4月	279	3,769	81	462	1,159	195	146,771	327	95	64	66	489	3	66	30	1,944	5,060
	5月	271	3,690	74	490	1,246	193	163,163	337	91	92	98	426	1	1	18	1,919	5,035
	6月	285	4,051	85	453	1,167	129	84,069	334	77	60	70	239	3	12	23	1,603	5,300
	7月	276	3,866	82	511	1,266	129	91,936	379	95	93	97	216	0	0	24	1,723	5,229
	8月	267	3,690	83	459	1,106	126	115,824	350	138	80	86	239	8	9	29	1,696	4,891
	9月	294	4,123	84	509	1,257	158	122,164	352	104	72	81	140	16	16	23	1,668	5,477
	10月	289	4,408	86	470	1,179	142	105,258	412	124	99	111	334	1	15	19	1,890	5,713
	11月	280	5,167	91	417	1,034	105	102,931	303	116	71	74	278	2	11	16	1,588	6,286
	12月	267	4,670	82	441	1,123	108	89,534	319	97	70	78	222	1	3	22	1,547	5,874
	1月	242	3,600	79	398	956	100	67,307	348	81	78	83	347	8	12	18	1,620	4,651
	2月	301	4,811	87	509	1,259	117	106,906	333	87	93	100	160	1	5	9	1,610	6,175
	3月	198	3,188	89	391	953	93	62,657	355	84	65	70	236	1	2	11	1,434	4,213
平成26年度計		3,249	49,033	84	5,510	13,705	1,595	1,258,520	4,149	1,194	937	1,014	3,326	45	152	242	20,247	63,904
前年度比		102%	109%	103%	115%	114%	95%	88%	104%	127%	113%	110%	98%	85%	149%	102%	106%	110%
前年度差		68	4,001	3	702	1,703	-80	-172,790	146	251	105	89	-62	-8	50	4	1,126	5,843
平成22年度～26 年度計		15,702	229,768	81	22,093	63,360	8,529	7,427,331	18,709	8,343	3,776	4,172	16,461	181	652	1,031	94,825	297,952
平成11年度～ 26年度計		44,981	612,166	80	47,202	161,090	30,961	27,659,196	53,958	31,108	14,417	16,332	56,217	1,175	4,491	1,031	281,034	794,079
		a	a'		b	b'	c		d	e	f	f'	g	h	h'	i	A	B

※平成18年度に現在地に移転。

※図書貸出件数は平成22年度より総利用者件数に加算した。

A=a+b+c+d+e+f+g+h+i

※国連世界防災会議期間3/9～3/20は、「貸室」「情報揭示」の受付のみで貸室貸出及びサービス利用等は休止。

B=a'+b'+f'+h'

■情報関連業務利用状況推移(平成21年度～26年度)

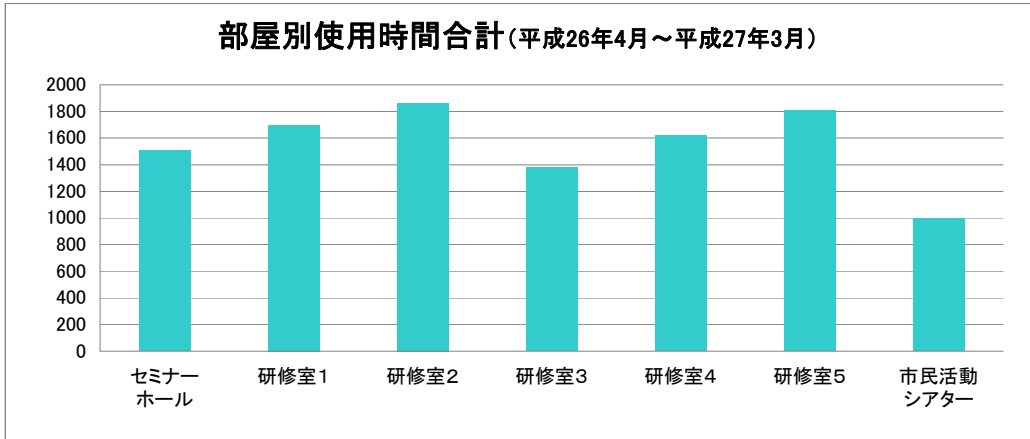
資料 3

		印刷機		コピー機	パソコン				情報揭示					図書資料		
		利用件数	枚数	利用枚数	インターネット * 1	作業用	持ち込みPC ネット接続 * 2	計	チラシ	骨プロ * 3	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成21年度		1,768	1,601,907	27,633	1,425	880	1,964	4,269	2,486	655	314	1,446	4,246	99	341	531
平成22年度		1,670	1,538,832	25,762	1,163	801	1,161	3,125	2,009	700	285	1,169	3,463	91	254	414
平成23年度		1,713	1,669,297	24,809	549	659	416	1,624	1,788	568	229	1,156	3,173	40	142	232
平成24年度		1,876	1,445,588	17,782	433	712	312	1,457	2,292	861	296	1,333	3,921	57	155	243
平成25年度		1,675	1,256,828	17,841	273	562	107	942	1,462	895	270	1,376	3,108	54	239	365
平成26年度	4月	195	146,771	1,439	37	58	0	95	126	72	21	108	255	8	29	44
	5月	193	163,163	2,191	35	56	0	91	152	68	24	93	269	4	17	23
	6月	129	84,069	1,388	30	47	0	77	144	67	21	102	267	4	23	34
	7月	129	91,936	2,058	27	68	0	95	141	88	32	118	291	9	25	33
	8月	126	115,824	745	36	102	0	138	154	68	21	107	282	13	27	46
	9月	158	122,164	1,798	13	91	0	104	137	83	33	99	269	9	23	27
	10月	142	105,258	1,060	18	106	0	124	156	103	40	113	309	8	19	29
	11月	105	102,931	873	19	97	0	116	121	59	19	104	244	5	16	23
	12月	108	89,534	1,471	13	84	0	97	111	51	13	144	268	6	21	32
	1月	100	67,307	1,106	6	75	0	81	141	56	24	127	292	4	18	25
	2月	117	106,906	1,121	15	72	0	87	144	66	24	99	267	5	10	17
	3月	93	62,657	1,181	6	2	0	8	148	58	23	126	297	2	11	17
平成26年度計		1,595	1,258,520	16,431	255	858	0	1,113	1,675	839	295	1,340	3,310	77	239	350
前年度比		95%	100%	92%	93%	153%	0%	118%	115%	94%	109%	97%	106%	143%	100%	96%

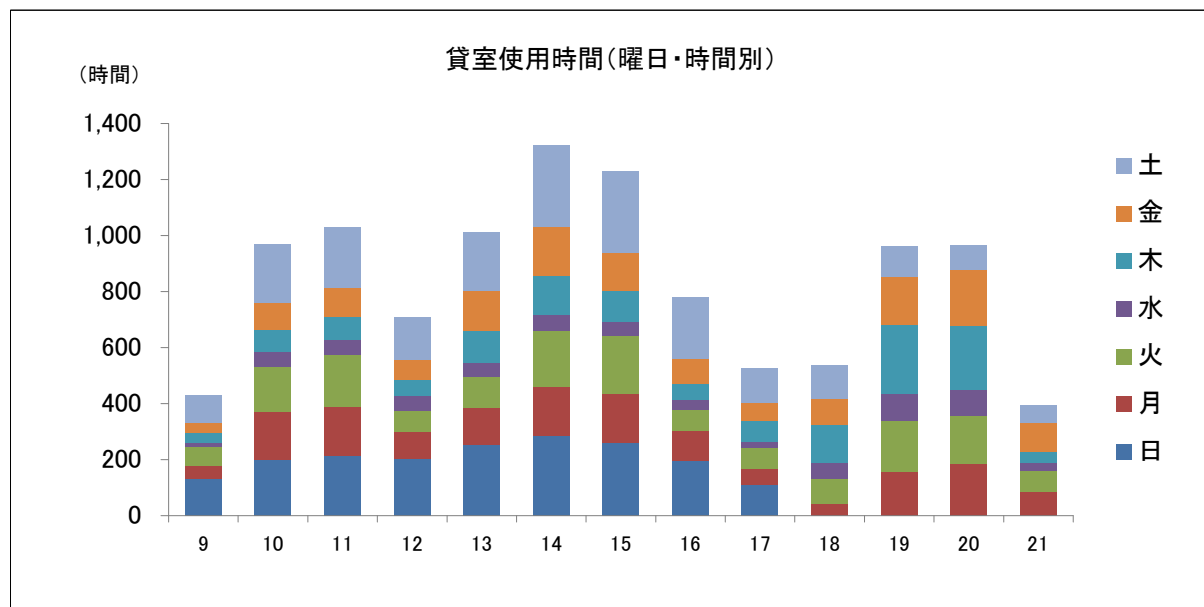
[illegible]

		セミナー ホール		研修室1		研修室2		研修室3		研修室4		研修室5		市民活動 シアター		合計時間	
4月	時間	118		150		174		124		130		144		36		876	
開館日	28 日数	21	75%	28	100%	28	100%	26	93%	26	93%	25	89%	4	14%	158	94%
5月	時間	107		131		155		111		143		160		30		837	
開館日	29 日数	20	69%	23	79%	27	93%	25	86%	27	93%	24	83%	4	14%	150	86%
6月	時間	116		144		176		116		128		157		45		882	
開館日	28 日数	22	79%	28	100%	28	100%	28	100%	27	96%	28	100%	5	18%	166	99%
7月	時間	122		148		159		111		142		144		78		904	
開館日	29 日数	25	86%	27	93%	28	97%	26	90%	28	97%	24	83%	7	24%	165	81%
8月	時間	101		137		161		114		145		164		102		924	
開館日	29 日数	19	66%	27	93%	28	97%	29	100%	29	100%	27	93%	10	34%	169	83%
9月	時間	117		166		176		121		150		141		72		943	
開館日	28 日数	23	82%	27	96%	28	100%	27	96%	28	100%	25	89%	8	29%	166	85%
10月	時間	136		137		156		126		140		163		115		973	
開館日	29 日数	25	86%	27	93%	28	97%	28	97%	27	93%	27	93%	14	48%	176	87%
11月	時間	174		177		166		143		158		193		176		1187	
開館日	28 日数	27	96%	27	96%	28	100%	26	93%	28	100%	26	93%	17	61%	179	91%
12月	時間	141		125		137		109		134		152		88		886	
開館日	26 日数	18	69%	24	92%	23	88%	25	96%	25	96%	24	92%	11	42%	150	82%
1月	時間	109		120		129		93		123		151		76		801	
開館日	26 日数	20	77%	23	88%	22	85%	23	88%	24	92%	24	92%	7	27%	143	79%
2月	時間	164		150		169		129		144		142		106		1004	
開館日	26 日数	25	96%	23	88%	26	100%	26	100%	24	92%	23	88%	13	50%	160	88%
3月	時間	102		111		106		84		80		96		72		651	
開館日	17 日数	15	88%	17	100%	16	94%	16	94%	16	94%	16	94%	10	59%	106	89%
合計	時間	1507		1696		1864		1381		1617		1807		996		10868	
開館日	323 日数	260	80%	301	93%	310	96%	305	94%	309	96%	293	91%	110	34%	1888	84%
前年度合計	日数	260	78%	314	94%	323	96%	303	90%	314	94%	293	87%	88	26%	1897	81%

※国連世界防災会議期間3/9～3/20を開館日から除く。



	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	計
日	130	199	213	203	255	285	261	194	111	0	0	0	0	1,851
月	49	170	178	96	130	177	176	110	55	43	156	185	85	1,610
火	66	164	183	76	111	198	204	74	77	88	183	174	76	1,674
水	13	52	54	53	50	59	52	35	20	58	98	90	26	660
木	39	80	82	59	113	139	109	58	76	135	244	228	43	1,405
金	34	94	103	72	143	173	135	89	64	94	171	201	101	1,474
土	99	210	214	151	211	290	292	220	125	121	109	88	64	2,194
計	430	969	1,027	710	1,013	1,321	1,229	780	528	539	961	966	395	10,868

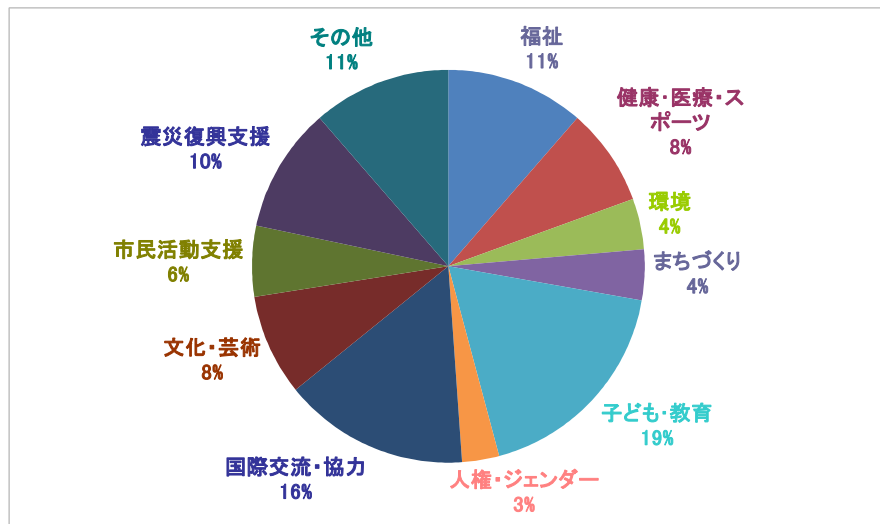


■利用団体分野別集計

資料 7

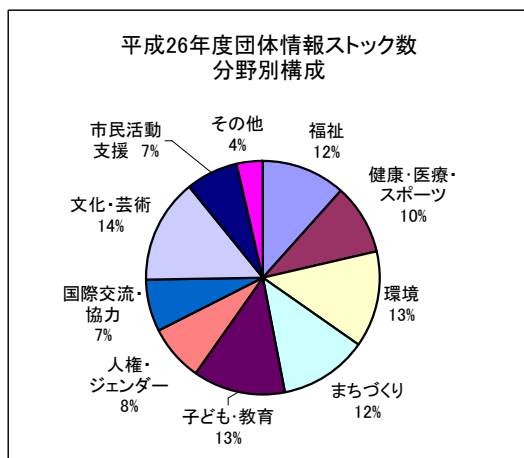
※提出された利用票の活動分野に関する回答(複数可)を集計

分野	来館利用		主な活動内容
	利用票	構成比	
福祉	1036	11%	障害者、高齢者、福祉一般
健康・医療・スポーツ	738	8%	医療・保健・健康、スポーツの振興
環境	382	4%	食・農業、環境・エコロジー
まちづくり	391	4%	地域・まちづくり、交通などの安全対策、災害などの救援活動
子ども・教育	1645	18%	子ども、青少年、教育・学習支援、社会教育
人権・ジェンダー	278	3%	ジェンダー、男女共同参画、人権、平和
国際交流・協力	1396	15%	在日外国人、留学生支援、国際貢献・協力、国際交流
文化・芸術	772	8%	文化・芸術の振興
市民活動支援	528	6%	ミニコミ・出版、市民事業、市民活動団体の支援、助成活動
震災復興支援	958	10%	
その他	1037	11%	政策提言、労働問題、コミュニティ・ビジネス、消費者保護、情報化社会等
合計	9161	100%	



分野	情報利用 *1				
	団体数	構成比	県内	県外	
福祉	536	12%	454	82	障害者、高齢者、福祉一般
健康・医療・スポーツ	449	10%	377	72	医療・保健・健康、スポーツの振興
環境	604	13%	420	184	食・農業、環境・エコロジー
まちづくり	562	12%	495	67	地域・まちづくり、交通などの安全対策、災害などの救援活動
子ども・教育	588	13%	470	118	子ども、青少年、教育・学習支援、社会教育
人権・ジェンダー	360	8%	254	106	ジェンダー、男女共同参画、人権、平和
国際交流・協力	337	7%	209	128	在日外国人、留学生支援、国際貢献・協力、国際交流
文化・芸術	656	14%	570	86	文化・芸術の振興
市民活動支援 *2	332	7%	100	232	市民事業、市民活動団体の支援、助成活動
その他	166	4%	132	34	政策提言、労働問題、コミュニティ・ビジネス、消費者保護、情報化社会等
計	4590	100%	3481	1109	
H25年度累計蓄積数	4518		3413	1105	
前年度比	102%		102%	100%	* 県内の団体情報も、チラシやニュースレターを受け付けた団体、サポートセンターの利用団体などの情報とした。

*1 情報利用: 団体情報の蓄積数 *2 市民活動支援の県内は東北とよみかえる

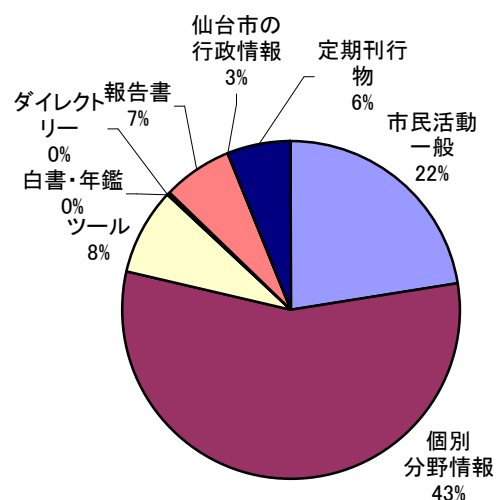


■図書資料分類別冊数

資料 9

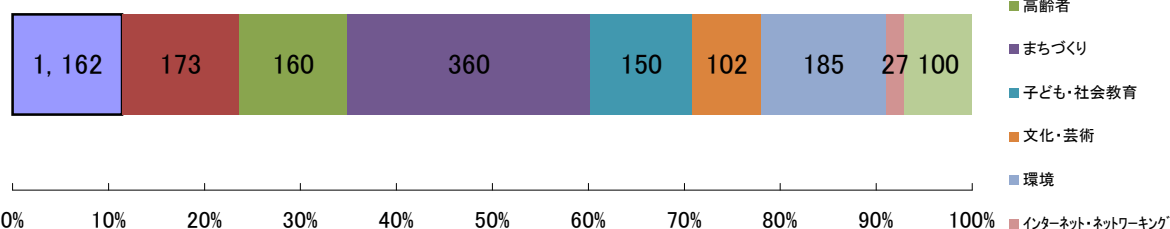
分類	分類名	種類	冊数
A-1	市民活動・NPO全般	151	151
A-2	NPO法・条例	7	7
A-3	会計・マネジメント	104	104
A-4	財団・協同組合	23	23
A-5	ボランティア	79	79
A-6	企業とNPO・フィランソロピー	80	80
A-7	行政とNPO・政策提言	86	86
A-8	NPO法・条例の経済分析	23	23
B	ジェンダー・人権	162	162
C	福祉・医療	173	173
D	高齢者	160	160
E	まちづくり	360	360
F	子ども・社会教育	150	150
G	文化・芸術	102	102
H	環境	185	185
J	インターネット・ネットワーキング	27	27
K	国際協力・NGO	100	100
L	ハウツー	139	139
M	年鑑	0	0
N	辞書	28	28
O	地図	6	6
P	白書	4	4
Q	ダイレクトリー	3	3
R	報告書	166	166
T	仙台市の行政情報	1	1
V	ビデオソフト	0	0
X	定期刊行物・雑誌バックナンバー	151	1054
合 計		2470	3373

大分類	種類	内訳
市民活動一般	553	A-1,2,3,4,5,6,7,8
個別分野情報	1392	B,C,D,E,F,G,H,K,
ツール	200	J,L,N,O
白書・年鑑	4	M,P
ダイレクトリー	3	Q
報告書	166	R
仙台市の行政情報	1	T
ビデオソフト	0	V
定期刊行物	151	X
合計	2470	



大分類別冊数

個別分野情報



■サポートセンターホームページ アクセス件数集計表

資料 10

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ユニークユーザ ※1	件	2493		1069	2389	2213	2385	2243	2012	1987	2061	2788	3583	25,223
ページビュー ※2	件	8187		5541	11837	10986	11462	10588	9943	10234	9612	12256	12767	113,413

※1…パソコン1台を1件としたアクセス数。一日のうちであれば、同じパソコンから何度アクセスがあっても1件とする。

※2…HP内にあるサイトの総閲覧数

※ホームページ改訂(5月実施)に伴い、6月から解析ツールを変更した。5月分が欠測、6月分は半月の計測となっている。

■ページランキング（ページビューの多いページの上位5位まで。右側の数字はページビュー）

	4月	5月	6月
1位			トップページ 1,570
2位			アクセス(地図) 420
3位			イベント・講座 374
4位			サポセンを使う 303
5位			セミナー・研修室 298

※4月・5月欠測、6月は半月の計測

	7月	8月	9月
1位	トップページ 3,667	トップページ 3,426	トップページ 3,478
2位	アクセス(地図) 774	イベント・講座 861	アクセス(地図) 858
3位	イベント・講座 748	アクセス(地図) 771	イベント・講座 711
4位	セミナー・研修室 615	セミナー・研修室 556	セミナー・研修室 598
5位	市民ライター講座2014 549	貸室 448	サポセンを使う 528

	10月	11月	12月
1位	トップページ 3,519	トップページ 3,178	トップページ 3,322
2位	アクセス(地図) 959	アクセス(地図) 863	アクセス(地図) 858
3位	イベント・講座 743	イベント・講座 818	イベント・講座 787
4位	サポセンを使う 480	セミナー・研修室 484	セミナー・研修室 554
5位	セミナー・研修室 476	サポセンを使う 423	貸室 506

	1月	2月	3月
1位	トップページ 3,197	トップページ 3,772	トップページ 4,350
2位	イベント・講座 835	アクセス(地図) 1,463	アクセス(地図) 1,882
3位	アクセス(地図) 777	イベント・講座 914	イベント・講座 887
4位	セミナー・研修室 552	セミナー・研修室 657	セミナー・研修室 639
5位	貸室 453	貸室 579	貸室 506

■展示利用状況

第1回 (4/1～15)※休館日 4/9 利用なし	第2回 (4/16～30)※休館日 4/23 利用なし
第3回 (5/1～15)※休館日 5/14 利用なし	第4回 (5/16～31)※休館日 5/28 利用なし
第5回 (6/1～15)※休館日 6/11 自己使用 開館 15 周年に合わせ、写真とぱれっとバックナンバー 全号展示を行った。	第6回 (6/16～30)※休館日 6/25 自己使用 開館 15 周年に合わせ、写真とぱれっとバックナンバー 全号展示を行った。利用なし
第7回 (7/1～15)※休館日 7/9 自己使用 開館 15 周年に合わせ、写真とぱれっとバックナンバー 全号展示を行った。	第8回 (7/16～31)※休館日 7/23 ♀×♀お茶っこ飲み会・仙台 仙台七夕に合わせ、多様な性の当事者たちが制作した 七夕飾りを展示することで、その存在をアピールした。
第9回 (8/1～15)※休館日 8/13 ♀×♀お茶っこ飲み会・仙台 仙台七夕に合わせ、多様な性の当事者たちが制作した 七夕飾りを展示することで、その存在をアピールした。	第10回 (8/16～31)※休館日 8/27 利用なし
第11回 (9/1～15)※休館日 9/10 利用なし	第12回 (9/16～30)※休館日 9/24 交通を考える研究会 クルマに頼らなくても快適に移動できるまちづくりのため、バスや自転車利用の PR 展を行った。
第13回 (10/1～15)※休館日 10/8 白神自然学校 江戸時代に白神山地・津軽半島を旅して北海道に渡った菅江真澄の足跡を紹介し、白神の魅力を伝えた。	第14回 (10/16～31)※休館日 10/22 白神自然学校 江戸時代に白神山地・津軽半島を旅して北海道に渡った菅江真澄の足跡を紹介し、白神の魅力を伝えた。
第15回 (11/1～15)※休館日 11/12 利用なし	第16回 (11/16～30)※休館日 11/26 利用なし
第17回 (12/1～16)※休館日 12/10 利用なし	第18回 (1/15～31) ※休館日 1/28 サンタピアップみやぎボランティア会 書き損じハガキや切手によってカンボジアの学校が建て替えられる様子を紹介するとともに、提供を呼びかけた。
第19回 (2/1～14)※休館日 2/12 利用なし	第20回 (2/15～29) ※休館日 2/25 利用なし
第21回 (3/1～15)※休館日 3/4 ※国連防災世界会議のため貸出しなし	第22回 (3/16～31) ※休館日 3/25 ※国連防災世界会議のため貸出しなし

■サポートセンター通信「ぱれっと」 発行状況

NO	号	表紙コラム	2～3ページ	4ページ/4～5ページ	6ページ	7ページ	8ページ/8～9ページ	10ページ	11ページ	12～13ページ	14～15ページ	16ページ	配布状況				
													全国のサ ポートセン ター	行政 窓口	そ 他	サポ ート セン ター 館内	計
176	4月	マチノワコラム	特集	サポセンカレンダー/奥付									273	1594	489	396	2752
		マチノワ	はじめてのサポセン	カレンダーの代わりにブックレビュー													
177	5月	マチノワコラム	ちらっと市民活動見楽部	サポセンカレンダー/奥付									273	1594	479	319	2665
		フェアトレード	ドナルド・マクドナルド・ハウスさんだ い														
178	6月	マチノワコラム	きになるカツドウ研究部	サポセンカレンダー/奥付									273	1594	479	379	2725
		地下鉄東西線ま ちづくり応援部	テーマ:フリーペーパー O38PRESS、オヤタマ、♀×♀、仙 台一高新聞														
179	7月		もくじ	思いをカタチにするチカラ	シニアのチカラ		若者のチカラ NPO法人ドットジェイビー、アイセック 仙台委員会、一般社団法人 ReRoots、NPO法人POSSE仙台支 部	企業のチカラ カゴメ(株)東日本 大震災復興支援 室	ワタシのチカラ	好きを広げるチカラ	マチノワ	奥付	273	1594	479	1173	3519
		サポセン開設15 周年記念号		NPO法人World Open Heart	NPO法人日本脳トレーニング協会				園児エプロンプロ ジェクト	リボンヌ手芸部宮 城							
180	8月	マチノワコラム	きになるカツドウ研究部	サポセンカレンダー/奥付									273	1588	468	425	2754
		THE BIG ISSUE	テーマ:芸術活動の広場 10-BOX、4プラ、日立システムズ ホール、市民活動シアター														
181	9月	もくじ	市民の力を支える		マチノ輪	図書コーナーより	サポセンカレンダー/奥付						273	1588	468	582	2911
			調査編	相談編	NPO法人地星社	ブックレビュー											
182	10月	マチノワコラム	ヨシ！思い立ったら！実習部	サポセンカレンダー/奥付									273	1588	459	245	2565
		スポーツボラン ティア	NPO法人グリーンバード														
183	11月	マチノワコラム	ちらっと市民活動見楽部	サポセンカレンダー/奥付									273	1588	459	309	2629
		エイズチャリティ	西公園プレーパークの会														
184	12月	もくじ	市民の力を支える		マチノ輪	トピック	サポセンカレンダー/奥付						283	1589	454	269	2595
			広報編 広報戦略	市民ライター	一般社団法人メ ディアデザイン	印刷のコツ											
185	1月	マチノワコラム	ヨシ！思い立ったら！実習部	サポセンカレンダー/奥付									283	1588	454	266	2591
		年賀状で寄付	わしん倶楽部														
186	2月	マチノワコラム	きになるカツドウ研究部	サポセンカレンダー/奥付									283	1588	454	260	2585
		国連防災世界会 議	「市民協働と防災」テーマ館														
187	3月	もくじ	市民の力を支える		トピック		サポセンカレンダー/奥付						283	1588	454	574	2899
			資金調達編 助成金申請講座	ファンドレイジングについて 広報ツールをつくろう！	会計のツボ	活動計算書											
計													3316	19081	5596	5197	33190

※No.179(2014年7月号)は、15周年記念号なので発行部数5,000部。

2.問合せ・相談対応

資料 13

		年間総計	前年度	前年度比
相談件数(件)		937	833	112%
窓口別	対面	703	596	118%
	電話	225	218	103%
	その他	9	19	47%
開館日		323	335	96%
属性	個人	267	237	113%
	NPO/公益法人	184	160	115%
	任意団体	380	314	121%
	行政	24	33	73%
	企業	72	60	120%
	その他	13	30	43%
	小計	940	834	113%
相談種別	①施設利用	339	242	140%
	②施設サービス	125	103	121%
	③活動相談	473	488	97%
	その他	0	0	0%
	小計	937	833	112%

③活動相談 内容	市民活動基礎相談 (ボランティア、市民活動の基本知識等に関する相談)	28	42	67%
	活動立上げ・運営相談 (団体・法人立上げ等)	85	75	113%
	市民活動専門相談 (法務や広報、会計などの日常業務相談や、個人・団体のマッチング等の事業サポート全般)	99	119	83%
	情報提供、調査、その他	320	270	119%
	復興支援活動相談 (上記分類と重複有)	31	83	37%

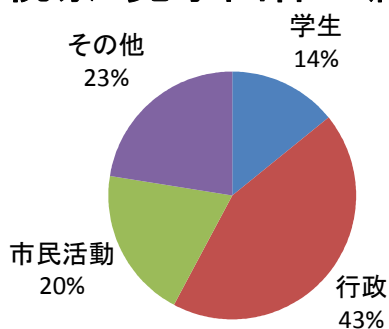
総件数：26件 総人数：168名

	対応日	属性	団体名	人数
1	4月3日	学生	大阪市立大	1
2	4月3日	行政	仙台市	30
3	4月4日	行政	仙台市	34
4	4月7日	市民活動団体	アイプラネット東北	2
5	5月6日	行政	川崎市市議会議員	1
6	6月12日	市民活動団体	南相馬市市民活動サポートセンター	7
7	6月15日	市民活動団体	茅ヶ崎市民活動サポートセンター	1
8	7月3日	行政	名取市職員	3
9	7月16日	市民活動団体	仙台メンタルヘルスサービス昭和町	8
10	7月16日	市民活動団体	秋田県南NPOセンター	2
11	8月25日	市民活動団体	エルパーク仙台	6
12	8月27日	その他	仙台ガスサービス	2
13	9月11日	その他	Luckshow	1
14	9月14日	その他	環境経営支援機構	9
15	9月18日	学生	高崎経済大	6
16	10月28日	行政・その他	酒田市・酒田市社会福祉協議会	15
17	11月8日	学生	東北文化学園大学	14
18	11月11日	市民活動団体	まちなか研究所わくわく	1
19	11月12日	市民活動団体	宮崎市市民活動センター	3
20	12月13日	その他	聖学院大学ボランティア支援センター	3
21	12月19日	その他	文化科学研究所	7
22	1月8日	その他	図書館流通センター	3
23	1月21日	市民活動団体	NPO法人シャプラニール	3
24	1月29日	その他	日本放送協会	3
25	1月31日	学生	東北大学大学院生	1
26	3月10日	学生	神戸芸術工科大	2
				168

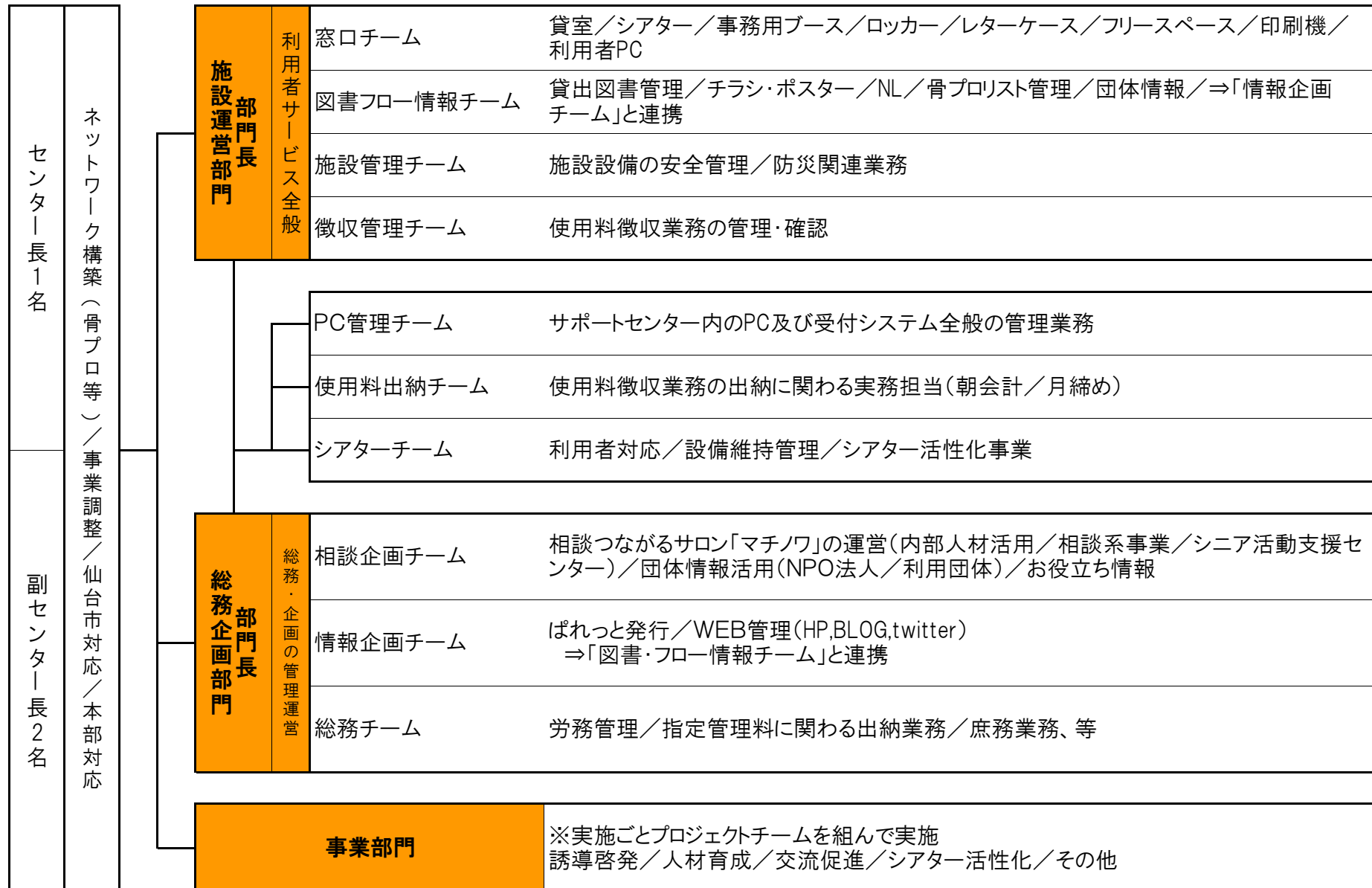
来館者内訳（人）

学生	24
行政	73
市民活動	33
その他	38

視察・見学団体の属性



平成26年度 仙台市市民活動サポートセンター 業務運営組織



事業名	誘導啓発事業 市民活動団体情報発信 市民ライター講座 2014
目的	・市民向けに情報編集に役立つ市民ライター講座を実施し、編集者としてのマインドを学ぶ機会をつくる。 ・地域情報を扱う多機関と連携し、市民がまちの情報発信を通じて、まちづくりに関わる場の提供をする。
成果	・トークイベントは定員より3名越え、2回のワークショップは定員の2倍の受講者が集まった。その中で、市民活動未体験者は、ほぼ半数程度だった。 ・アンケートでも、満足度5、4と回答した方が全体の80～90%を占めた。書くスキルを学ぶ機会を得ることができ、満足度が高い講座となった。 ・受講後もほとんどの方が市民ライター活動をやりたいと回答し、潜在的に文章を書いて発信したい方がいることが分かった。 ・受講後、協力団体の『038 プレス』の活動に2名参加。河北新報社オンラインコミュニティに新規ブログを開設して情報発信を始めた方が、3名いる。 ・フォローアップ講座の実施及び、国連防災世界会議の情報ボランティアの実施につながった。
実施概要	書く力 伝える力 まちの魅力を編集しよう！ 1. ビフォートーク：あなたのペンが、社会をかえる？ 開催日：2014年7月25日（金） 19:00～21:00 会 場：仙台市民活動サポートセンター 市民活動シアター 参加者：33人 ゲスト：本間美和さん（NPO法人HUG ライター・編集者） 大泉浩一さん（一般社団法人メディアデザイン ライター・編集者） 内 容：市民が情報いふれ、発信することでまちはどうかわるのか。市民ライターが果たす役割と、書くことの楽しさ、取材し伝えることの面白さを、ゲストのお二人に聞く。 2. ワークショップ① 書く力をみがく 開催日：2014年7月26日（土） 10:00～12:00 会 場：仙台市民活動サポートセンター 市民活動シアター 参加者：30人 講 師：本間美和さん（NPO法人HUG ライター・編集者） 内 容：人に読まれる文章を書くために必要な、文章の書き方、構成力を学ぶ 3. ワークショップ② 伝える力をUPさせる 開催日：2014年8月9日（土） 14:00～16:00 会 場：仙台市民活動サポートセンター 市民活動シアター 参加者：23人 講 師：大泉浩一さん（一般社団法人メディアデザイン ライター・編集者） 協 力：038 プレスお宮町地域情報編集局、クラシオ編集室、まっくる編集部、 河北新報社オンラインコミュニティ 内 容：実際に協力団体を取材し、インタビューを体験する。
課題	・各1回ずつのワークショップでは、取材して記事を書くまでの実践につながり難しかった。 ・市民ライター活動を続けたいという希望する方が多かったため、活動団体とマッチングなどをおし、活動の場を増やすような工夫が必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	誘導啓発事業			
	市民ライター講座 2014 河北×サポセン 記者と体験 取材執筆コトはじめ			
目的	・市民が身近な社会の課題に目をむけ、自ら情報発信する力をつける ・NPO・市民活動団体の情報を、市民がより興味関心をもち共感できる言葉と視点で社会に伝える ・市民力の掘り起しと市民活動の情報の交流が促進される			
成果	・市民活動を取材対象としたことで、その活動を知る機会となり、関心を持つようになった。 ・講座での学びを実践する場を提供し、情報を社会に伝える楽しさを体験してもらうことができた。 ・講座のゴールを河北タ刊に掲載することに設定した。結果、2014年12月17日、2015年2月18日付で4名の記事4本が紙面に掲載された。 ・講座終了後、当センター主催誘導啓発事業（ハジマル、フクラム、ちょっと。ボランティア）に参加を呼びかけ、4名が事業実施レポート冊子に掲載する記事の執筆に携わった。 ・3月14日～17日開催の国連防災世界会議テーマ館（サポセン）内にプレスセンターを設置。情報発信ボランティアとして6名が参加し、参加団体の紹介記事をブログにアップした。			
実施概要	1. 河北×サポセン 記者と体験 取材執筆コトはじめ ～地元を伝えて応援しよう～Ⅰ 主催：河北新報社 仙台市市民活動サポートセンター			
	開催日	会場	内容	講師
	2014年11月8日（土） 10:00～15:00	市民活動シアター	学ぶ：記事の書き方・取材の仕方・写真の撮り方	河北新報記者 矢嶋哲也さん 写真部
	2014年11月9日（日） 10:00～15:00	研修室5	実践：NPO・市民活動の現場を取材する・原稿執筆	矢嶋哲也さん 大泉大介さん
	2014年11月14日（金） 18:00～20:00	研修室5	発表：合評会	矢嶋哲也さん 大泉大介さん
	※取材協力団体：西公園プレーパークの会、新・邦二（シンフォニー）協会			
	2. 河北×サポセン 記者と体験 取材執筆コトはじめ ～地元を伝えて応援しよう～Ⅱ 主催：河北新報社 仙台市市民活動サポートセンター			
	開催日	会場	内容	講師
	2015年1月10日（土） 10:00～15:30	研修室5	学ぶ：記事の書き方・取材の仕方・写真の撮り方	河北新報記者 矢嶋哲也さん 写真部
	2015年1月11日（日） 10:00～15:00	研修室2	実践：NPO・市民活動の現場を取材する・原稿執筆	矢嶋哲也さん 大泉大介さん
	2015年1月16日（金） 18:00～20:00	研修室5	発表：合評会	矢嶋哲也さん 大泉大介さん
	※取材協力団体：038 プレス お宮町地域情報編集局、み・まもるプロジェクト実行委員会			
課題	・市民ライターの活動に意欲のある受講者が多かったが、すべての方を実際の活動現場へマッチングすることができなかった。情報発信の担い手の育成とともに、市民メディアとの連携が必要になる。 ・受講者が自主的にメディアをつくったり、コミュニティに入り情報発信したりするまでには至らなかった。次の段階として、課題意識と当事者性をもって活動できるように工夫する必要がある。			
添付資料	□収支計算書 □広報記録 □事業詳細 □その他（ ）			

	誘導啓発事業																				
事業名	市民ライター講座 2014 まっくる×サポセン 市民ライター勉強会																				
目的	・地下鉄東西線を中心としたまちづくりに関心をもち、市民および市民活動団体の活動を広く情報発信していく。																				
成果	・7、8月に開催した市民ライター講座受講者より、4名がスキルアップのために参加。4日間の連続講座であったが、受講者は意欲的に取り組み、満足度が高かった。機会があれば「まっくる」の紙面に協力したい方は、3名だった。																				
実施概要	1. 市民ライター勉強会 まっくる編集部との共催 <table border="1" data-bbox="285 864 1466 1263"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>会場</th><th>内容</th><th>講師</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2014年10月24日（金） 18:30～20:30</td><td>研修室1</td><td>講座：取材と記事執筆の基本</td><td>河北新報記者 大泉大介さん</td></tr> <tr> <td>2014年11月22日（土） 9:30～11:30</td><td>創業スクエア</td><td>講座：模擬取材・原稿執筆</td><td>同上</td></tr> <tr> <td>2014年11月29日（土） 9:30～11:30</td><td>研修室2</td><td>講座：合評会</td><td>同上</td></tr> <tr> <td>2014年12月13日（土） 9:30～11:30</td><td>研修室2</td><td>講座：写真の撮り方</td><td>フォトグラファー 魚住一夫さん</td></tr> </tbody> </table> ※模擬取材協力者：河北記者と駆けるインターンの学生受講者、シニア活動支援センターの利用者	開催日	会場	内容	講師	2014年10月24日（金） 18:30～20:30	研修室1	講座：取材と記事執筆の基本	河北新報記者 大泉大介さん	2014年11月22日（土） 9:30～11:30	創業スクエア	講座：模擬取材・原稿執筆	同上	2014年11月29日（土） 9:30～11:30	研修室2	講座：合評会	同上	2014年12月13日（土） 9:30～11:30	研修室2	講座：写真の撮り方	フォトグラファー 魚住一夫さん
開催日	会場	内容	講師																		
2014年10月24日（金） 18:30～20:30	研修室1	講座：取材と記事執筆の基本	河北新報記者 大泉大介さん																		
2014年11月22日（土） 9:30～11:30	創業スクエア	講座：模擬取材・原稿執筆	同上																		
2014年11月29日（土） 9:30～11:30	研修室2	講座：合評会	同上																		
2014年12月13日（土） 9:30～11:30	研修室2	講座：写真の撮り方	フォトグラファー 魚住一夫さん																		
課題	・市民ライターの受け入れについては、次年度以降、まっくる編集部で受入れ体制など検討することになった。																				
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）																				

事業名	誘導啓発事業 市民活動団体情報発信（マチノワストーリー企画）
目的	2014 年度実施した誘導啓発事業の「ハジマルフクラム、トークタイム」「ちょっと。ボランティア」「市民ライター講座」の成果発表と、新たな行動を生み出す場として企画した。 上記事業の各参加者の中で、団体を立ち上げた人や活動に参加した人、市民ライターとして取材体験者などが事例を発表し、誘導啓発事業の総まとめ（成果をまとめた冊子）として作成した報告書を配布することで、市民活動に関心を持つ人、関わる人の輪を広げることを目的とする。
成果	・今年度の誘導啓発事業の総まとめとして、4 件の事例発表を提供することができた。 ・「何かしたい」という潜在層の意識を具体的な活動へつなげた事例を聞くことにより、これから活動を始めるきっかけづくりや、仲間づくりの場になった。
実施概要	日時：2014 年 2 月 21 日（土）19 時～21 時 会場：仙台市市民活動サポートセンター地下 1 階 市民活動シアター タイトル：ワクワクをカタチにする 4 つのお話「マチノワストーリー」 内容：「ハジマル、フクラムプロジェクト」「ちょっと。ボランティア」「市民ライター講座」の 3 プロジェクトを通して、新たな活動を始めた人たちのお話を聞くトークイベント。 事例発表者： ・「多賀城プレーパークの会」を立ち上げた山田和佳子さん他 2 名 ・今年度 3 回実施した「ちょっと。ボランティア」に、すべて参加した佐々木俊一さん ・「市民ライター講座」を受講した、038 プレス編集委員の水沼幸三さん ・「ハジマル、フクラムプロジェクト 食からハジマル、オイシイおはなし」、に参加した、プロボノの千田麻美さん 『ちいさなマチノワストーリー』の配布： 3 つのプロジェクトをまとめた事業実施レポート『ちいさなマチノワストーリー』を会場で配布した。参加者が地域・社会貢献活動について伝えたい人に手渡してもらえるように、発刊の趣旨などをサポセンスタッフから参加者に伝えた。 参加者：30 名
課題	・定員は満たしたものの事業計画に時間を要し広報期間が短かったため、集客に苦労した。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	誘導啓発事業
	ハジマル、フクラムプロジェクト
目的	・ NP0 や市民活動に普段関わりのない方々が、身近なところから市民活動に関わるきっかけをつくる ・ 自分たちの日々の暮らしの中にある社会課題を知り、「自分にもなにかできることがあるかもしれない」という思いを膨らませること ・ 実際に市民活動に参加するといった、それぞれのアクションへとつなげる
成果	・ NP0 や市民活動に普段関わりのない方々は、全 4 回開催、63 名の参加者のうち 18 名。アンケートからは、「自分の身近なところから、何か少しずつでも協力したい」「全く知らない世界のお話だったので興味深かった」など、関心を引きやすく、参加者の暮らしに近いキーワードを入口に、市民活動と触れ、団体が取り組む社会課題に関心を持ってもらうことができた。 ・ 「何か始めたい」と、より具体的な思いを持つ参加者は、参加者やゲスト団体と交流を深め、自身の団体を立ち上げるなど、実際に団体が誕生した。 ・ 昨年度の課題であった、「実行に移すためのきっかけづくり」は、市民活動体験企画「ちょっと。ボランティア」と連動することで、はじめの一步を増やすことができた。 ・ 継続的に活動に参加している方もいる。実践を通して、自分と自分の思い、自分と市民活動、自分と地域、自分と社会課題との関係を体感し、その後のアクションへつながったと言える。
実施概要	1. ふゆ・みず・たんぼ～田んぼが育む生きものと人のつながり 開催日：2014 年 5 月 29 日（木）18:30～20:30 参加者：20 名 ゲスト：NP0 こよみのあしおと 代表 久保田歩さん 内容：団体と立ち上げようと思ったきっかけ～プロセス～発足までの思いの整理をお話していただいた。また団体の活動紹介のひとつとして、労働力を必要としている農家さんに労働力を提供し、その代わりに農作物をいただくという活動の具体的な内容をご紹介していただき、農作業を通して生きものの棲み処を守る大切さを伝えていただいた。 2. みんなでつくる 子どもの自由なあそび場 開催日：2014 年 9 月 21 日（日）10:30～12:30 参加者：15 名 ゲスト：西公園プレーパークの会 プレーリーダー 佐々木啓子さん 内 容：団体の活動紹介を皮切りに、ゲストの方が活動を始めたきっかけや想いを紹介いただいた。西公園を主な活動拠点とする活動の多様性から、互いに支えながら無理なく運営する組織体制に話題を展開し、団体設立に役立つヒントを頂いた。後半の交流タイムではプレーパーク開催に意欲的な参加者同士の活発な交流が見られた。（この交流で仲間を得た方々同士で後日「多賀城プレーパークの会」を設立。11 月には多賀城プレーパークを開催した） 3. 「食」からハジマル、オイシイおはなし 開催日：2014 年 11 月 27 日（木）18:30～20:30 参加者：20 名 ゲスト：NP0 法人ふうどばんく東北 AGAIN 事務局長 高橋陽佑さん 内 容：団体の活動紹介・食品ロスと日本の貧困問題の課題について、また、ゲストの方個人の思いや始めたきっかけなどトークを実施。食品ロス解消についてアイディア交換を行い、参加者同士が交流するワークショップを実施。

	4. ゲームでひらく防災の扉 開催日：2015 年 1 月 18 日(日)13:30～15:30 参加者：15 名 ゲスト：わしん倶楽部 減災コーディネーター 田中勢子さん 内 容：ゲームや運動を通じて防災・減災の知識や心構えを楽しくこと、団体の活動紹介、発足に至った動機について伺うトークを実施。後半には、防災グッズ展示と、防災ゲームのひとつ「クロスロード」を実際に参加者が体験した。
課題	・ サポセンのサービスや事業間連動をより意識して企画内容やシナリオを作成することで、内容の詰め込みすぎや参加者の不完全燃焼を防ぐ必要がある。 ・ 本プロジェクトの参加者が、トーク参加後どのようにアクションを起こしていったか、今後も継続して後追い調査する必要がある。 ・ 参加者の声が記されたアンケートを継続的に実施することで、個別企画や事業全体の評価結果をもとに事業の継続的な改善活動を体系化する必要がある。 ・ 参加者から頂いた個人情報（宛先やメールアドレス）を一元管理することで、情報保護の堅牢性を高めるとともに、情報の再利用（イベント案内など）の能率を高める。
添付資料	☐収支計算書 ☒広報記録 ☐事業詳細 ☒その他（事業実施時配布資料・アンケート結果）

事業名	誘導啓発事業																			
	お試し市民活動体験「ちょっと。ボランティア」																			
目的	地域・社会に何か役に立ちたいと考える人の中で、自分がどのように役に立つのか、また参加の仕方が分からないという人も多い。そのような思いや、経験・スキルを活かしたい方の第一歩として、参加しやすい市民活動団体と連携し、より多くの人に市民活動へのキッカケとして体験できる機会を提供することにより、今後の自発的な地域・社会貢献活動への参加につなげる。																			
成果	・地域・市民活動を体験し知って頂くこと、また市民活動団体や参加者同士の交流の場を作ること、今後の積極的な活動への参加につながった。 ・体験頂いた市民活動団体へ、今後も継続した活動の参加者が5名生まれた。 ・当センタースタッフも体験することで、活動先団体とのより一層の連携を深めることができた。																			
実施概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>■実施日</th> <th>■タイトル/活動先団体(案内人)</th> <th>■活動場所/内容</th> <th>■参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2014年 8月24日(日)</td> <td>「ちょっと。ボランティア 街のおそうじ」 NPO法人 greenbird (グリーンバード) 仙台チーム</td> <td>青葉区東二番丁通り～一番町四丁目商店街のゴミ拾いの活動</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>2014年 10月25日(土)</td> <td>「ちょっと。ボランティア 市民による西公園のあそび場づくり」 西公園プレーパークの会</td> <td>青葉区西公園の子どもの遊べる土の道づくり整備の活動</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>2014年 12月20日(日)</td> <td>「ちょっと。ボランティア 食品箱詰め体験」 NPO法人ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)</td> <td>ふうどばんくの事務所兼倉庫 食品の箱詰め(メッセージカード入)作業のお手伝い</td> <td>18名</td> </tr> </tbody> </table>				■実施日	■タイトル/活動先団体(案内人)	■活動場所/内容	■参加者数	2014年 8月24日(日)	「ちょっと。ボランティア 街のおそうじ」 NPO法人 greenbird (グリーンバード) 仙台チーム	青葉区東二番丁通り～一番町四丁目商店街のゴミ拾いの活動	12名	2014年 10月25日(土)	「ちょっと。ボランティア 市民による西公園のあそび場づくり」 西公園プレーパークの会	青葉区西公園の子どもの遊べる土の道づくり整備の活動	5名	2014年 12月20日(日)	「ちょっと。ボランティア 食品箱詰め体験」 NPO法人ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)	ふうどばんくの事務所兼倉庫 食品の箱詰め(メッセージカード入)作業のお手伝い	18名
	■実施日	■タイトル/活動先団体(案内人)	■活動場所/内容	■参加者数																
	2014年 8月24日(日)	「ちょっと。ボランティア 街のおそうじ」 NPO法人 greenbird (グリーンバード) 仙台チーム	青葉区東二番丁通り～一番町四丁目商店街のゴミ拾いの活動	12名																
	2014年 10月25日(土)	「ちょっと。ボランティア 市民による西公園のあそび場づくり」 西公園プレーパークの会	青葉区西公園の子どもの遊べる土の道づくり整備の活動	5名																
	2014年 12月20日(日)	「ちょっと。ボランティア 食品箱詰め体験」 NPO法人ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)	ふうどばんくの事務所兼倉庫 食品の箱詰め(メッセージカード入)作業のお手伝い	18名																
*「西公園プレーパークの会」・「NPO法人ふうどばんく東北AGAIN」については、誘導啓発事業の「知る」機会のハジマルプログラムプロジェクトと、「体験」機会と連動させた。																				
課題	・アンケートから「ちょっと。ボランティア」のネーミングから気軽さを求めて参加している方もいたため、新年度も同様の形式で実施したい。 ・市民活動の裾野を広げる目的とする誘導啓発事業の担当がうまく連動し、トークイベントから実際に活動を体験する流れが事業の成果として現れた。新年度の事業運営についても、担当者間でうまく連動させる。																			
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他()																			

平成 26 年度シニア専門相談実施報告書

事業名	人材育成事業			
	シニア専門相談			
目的	地域・市民活動や起業などについて毎回具体的なテーマを設定し、そのテーマに精通する相談員による専門相談。相談者であるシニア世代の持つ経験やスキルを、地域活動や社会貢献活動につなげることを目的とする。			
成果	・ 毎回定員になる申込みが多く、テーマとその活動に関心を持つシニア世代が多く参加された。 ・ 専門相談終了後、相談者がそれぞれのテーマの活動や講座などに参加した事例が多く出た。 ・ ソーシャルビジネス・起業のテーマで 2 回実施したが、2 回とも定員になり関心の高さが現れた。また相談者が、その後も日本政策金融公庫仙台支店で準備資金の融資やビジネスプランなどの継続相談を受け、NPO・一般社団法人の立ち上げや起業した事例が 5 件出て、成果につながった。			
実施概要	■日時	■相談テーマ	■専門相談員 団体名/氏名	■参加者 件/人数
	2014 年 5 月 18 日(日)	病院に入院されている子どもたちや、その家族へのボランティア活動に関心がある方の個別相談会。	ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい ハウスマネージャー 中島 康志さん	4 件 4 名 全員女性
	2014 年 7 月 19 日(土)	地域の課題解決や、震災後の復興支援の活動などのソーシャルビジネスを考えている方の個別相談会。	日本政策金融公庫仙台支店 国民生活事業 東北広域営業推進室 鎌田 彰さん	5 件 5 名 女性 1 名 男性 4 名
	2014 年 9 月 20 日(土)	「自分のできるとき・できることで、誰かのために活動してみませんか？」地域の助け合い活動に関心がある方の個別相談会。	みやぎ生協生活文化部 「こ～ぷくらしの助け合いの会」 事務局 千田 睦子さん	5 件 5 名 女性 1 名 男性 4 名
	2014 年 11 月 15 日(土)	地域と地球の環境を守るためのボランティア活動に関心がある方の個別相談会。	(公財) みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) 事務局 篠原 富雄さん	1 件 1 名 男性
	2015 年 1 月 17 日(土)	環境保全や自然保護の登山活動に参加しませんか！ 山の魅力や自然の大切さを知る個別相談会。	日本勤労者山岳連盟宮城県連盟 朋友会 渡部さん、田中さん	4 件 4 名 全員男性
	2015 年 3 月 21 日(土)	地域・社会の課題解決などのソーシャルビジネスや、NPO・市民活動団体の資金に関する個別相談会。	日本政策金融公庫仙台支店 国民生活事業 東北広域営業推進室 鎌田さん、松宮さん	5 件 5 名 女性 1 名 男性 4 名
課題	・ 今年度にてシニア専門相談は終了するが、シニア世代の持つ経験やスキルを、地域活動や社会貢献活動につなげることを目的とする、サポセンへの事業にどのように反映させるか。 ・ 来館者を待つだけの相談ではなく、テーマを取り上げた個別相談会を行うことで来館を促し、自発的で意識・意欲を持ったシニア世代のための、今後の相談事業の展開方法を検討する。			
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他 ()			

事業名	人材育成事業
	市民活動相談
目的	仙台市内のNPO法人対象にNPOの運営に対する課題について個別に相談できる機会を設け、運営上の課題解決を支援する。 市民活動サポートセンターで、活動に関わる様々な相談ができることを周知し、継続的に相談を受けられる環境を提供し、団体の活動を支援する。
成果	・ 深刻な悩みを抱えた団体に参加いただき、解決のきっかけにつなげることができた。問題解決に至らないにしても、団体の問題点の理解や、知識として不足していた部分を説明されることで次のステップにつながった。 ・ 仙台市内のNPO法人に郵送で案内を行ったことで、通常市民活動サポートセンターを利用していない団体が相談に来館された。相談機能の紹介につながった。
実施概要	実施日：平成26年9月18日(木) 会場：仙台市市民活動サポートセンター3階 研修室1 講師：黒政 健氏（社会保険労務士 くろまさ社会保険労務士事務所） 方法：事前申込制。1団体45分。 申込団体：NPO法人3団体 相談内容：理事長の役員報酬について スタッフの雇用保険・社会保険加入について フレックス・変形労働時間制の仕組みについて 大人数の非常勤スタッフに対する労務管理 社会保険労務士との付き合い方 社会保険料の資金負担について 社会保険・雇用保険の仕組みと雇用契約書の書式について
課題	・ 今期は労務相談のみ実施したが、運営の課題を抱えた法人に対し専門家や相談機関を紹介する機会を充実し、よりいっそう団体に寄り添った活動相談を行う。 ・ NPOの事務局運営力の向上のため、基本知識について学べる機会が継続的に必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	人材育成事業 相談対応冊子 (市民活動の始め方、続け方)
目的	サポートセンターの活動相談、特に立ち上げ検討段階の相談対応に活用し、市民活動の立ち上げや運営を支援する。 (対象者) ・市民活動をこれから立ち上げようとする人 ・法人設立を検討中の個人、法人化を検討している団体 ・団体運営等で課題を抱えている団体・法人
実施概要	サポートセンターには年間 700～800 件の相談が寄せられ（平成 24 年度実績 715 件、平成 25 年度実績 833 件）、そのうち活動に関する相談は 400 件以上にのぼる（平成 24 年度実績 428 件、平成 25 年度実績 488 件）。個別の対応が必要な専門的な相談がある一方で、市民活動の基礎や活動立ち上げ・運営相談など、よくある相談としてまとめられるものもある。 NPO の社会への浸透に伴い、新たに公益的な事業を立ち上げようとする人たちの中では、公益的な事業＝NPO 法人とのイメージが強いが、実際は法人格の無い任意団体から、平成 20 年に施行された公益法人制度改革に伴う新たな公益法人、近年増加しているビジネスの手法まで、組織形態も多様化している。そこで、サポートセンターでは平成 23 年度に新たな相談対応ツールとして冊子「市民活動の始め方、続け方」を作成。相談対応時に必要に応じて配布するとともに、平成 25 年度に新規に実施した「続・NPO いろは塾」の参加者へ参考資料として配布した。 特に、立ち上げ段階にある相談者にとって、任意団体を含めた組織形態の検討や、立ち上げ後の活動をイメージする入門書的な役割を担っており、有用な相談対応ツールとなっている。 以下の理由から、改訂版の作成が必要となった。 ・残部が少なくなった。 ・初版から 3 年が経過し、巻末に記載していた各窓口の連絡先等に変更が生じている。 ・初版の本文中に誤解を与える恐れのある表現や誤記が見つかり、改訂が必至である。 従って全面的に内容を見直し改訂した。 ①冊子概要：「市民活動の始め方続け方」 A5 版冊子（36 頁）×500 部作成 ※今後 3 年に一度程度または関係法令の改正など状況に応じて改訂予定。 ②収録内容： 第 1 章 市民活動のはじめ方と法人の種類 第 2 章 活動のお悩み解決の糸口 第 3 章 法人手続き関係官公庁連絡先 ③配布方法：相談対応時、および「続・NPO いろは塾」参加者へ配布。
成果	・内容改訂発行したことにより、相談対応の有効なツールとして引き続き相談者に提供できた。 ・相談対応時に活用することにより、入門者でも活動や具体的な手続きがイメージできる。
課題	・今後も定期的に内容について見直し改訂が必要である。 ・講座での活用など、必要としている市民に配布できるツールとして工夫が必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ■ その他（冊子）

事業名	人材育成事業																								
	NPOいろは塾																								
目的	・ NP0 に関する基本的理解を促す。 ・ 市民活動への参加や団体立ち上げのきっかけを提供し、市民活動の新たな担い手を育成する。 ・ サポートセンターの機能を紹介し、利用へつなげる。参加者の 3 分の 1 がサポセンでの情報収集、市民活動団体主催のイベント参加、ボランティア体験、寄付等の支援など何らかのアクションを起こすことを目標とする。																								
成果	・ アンケートの役立ち度（5 段階）は昨年同様、平均で 4.3 と高い評価を得、自由記述の回答からも NP0 の基本的理解ができた人が多かった。 ・ 受講後、受講者から活動や立ち上げに関する相談が 24 件あり、いろは塾をきっかけにサポセンの支援メニューを提供することができた。 ・ 受講後アンケートでは「NP0 が身近になった」「NP0 を立ち上げようと思う」「サポセンを是非活用したい」など、好評であった。（添付資料参照） また、市民ライター講座やハジマルプログラム等の誘導啓発事業へ参加する方もおり、受講者のステップアップにつながっている。																								
実施概要	開催期間：平成 26 年 6 月～平成 27 年 1 月 計 6 回開催																								
	<table><tr><th>開催日</th><th>時間帯</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>6 月 26 日(木)</td><td>19:00～20:30</td><td>14 人</td></tr><tr><td>7 月 27 日(日)</td><td>10:30～12:00</td><td>12 人</td></tr><tr><td>8 月 29 日(金)</td><td>19:00～20:30</td><td>11 人</td></tr><tr><td>11 月 21 日(金)</td><td>14:00～15:30</td><td>12 人</td></tr><tr><td>12 月 20 日(土)</td><td>19:00～20:30</td><td>6 人</td></tr><tr><td>1 月 25 日(日)</td><td>10:30～12:00</td><td>4 人</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>59 人</td></tr></table>	開催日	時間帯	参加人数	6 月 26 日(木)	19:00～20:30	14 人	7 月 27 日(日)	10:30～12:00	12 人	8 月 29 日(金)	19:00～20:30	11 人	11 月 21 日(金)	14:00～15:30	12 人	12 月 20 日(土)	19:00～20:30	6 人	1 月 25 日(日)	10:30～12:00	4 人		計	59 人
	開催日	時間帯	参加人数																						
	6 月 26 日(木)	19:00～20:30	14 人																						
	7 月 27 日(日)	10:30～12:00	12 人																						
	8 月 29 日(金)	19:00～20:30	11 人																						
	11 月 21 日(金)	14:00～15:30	12 人																						
	12 月 20 日(土)	19:00～20:30	6 人																						
	1 月 25 日(日)	10:30～12:00	4 人																						
		計	59 人																						
会場：仙台市市民活動サポートセンター研修室 5																									
講師：同サポートセンタースタッフ																									
内容（各回共通）																									
・ NP0 についての基礎知識 ・ NP0 はじめの一歩 ・ サポセンガイドツアー																									
今年度のいろは塾は、上記目的を達成するため、活動の実例紹介や、次のアクションにつなげるための情報収集の仕方や相談場所について詳しく伝える内容とした。																									
																									
講義の様子																									
																									
サポセンガイドツアーの様子																									
受講者へのフォロー																									
希望する受講者（59 人中 55 人）へ、3 か月間「ぱれっと」とサポセン主催のイベントチラシを郵送し、情報提供を行った。																									

課題	・いろは塾から個別相談、運営講座などの支援メニューに確実につなぐ。 27年度も実施予定の「続・NP0 いろは塾」も合わせて受講を勧め、受講者のステップアップに繋げる。
添付資料	☐収支計算書 ☒広報記録 ☐事業詳細 ☐その他（ ）

事業名	人材育成事業
	続・NPOいろは塾
目的	NPOいろは塾受講者が自身の次のアクションを明確にできるよう、市民活動への参加方法、任意団体の立ち上げ方など具体例を用いて伝える。
成果	・「NPOいろは塾」受講後のニーズであった「任意団体立ち上げ」や「法人設立」についての理解が深められ要望に応えられた。 ・NPOいろは塾→続NPOいろは塾→継続相談というケースも出てきており、市民活動を始める支援として有効であった。
実施概要	実施日時：9月27日（土）、2月14日（土）14:00～16:00 会場：サポートセンター 研修室5 講師：サポートセンター 副センター長 太田 貴 参加人数：9月27日（土）12名、2月14日（土）5名 「NPOいろは塾」受講者のみに案内 内 容： ・NPOへの参加方法 ・NPOの立ち上げ方（事例紹介含む） ・法人化（法人格の違い、任意団体との比較） ・サポートセンターの活用方法 配布資料 ・市民活動の始め方続け方 ・市民活動お役立ち情報（規約の作り方） 参考資料（自由持ち帰り資料） ・特定非営利活動促進法に係る諸手続きの手引き（仙台市版）NPO法人設立編 ・特定非営利活動促進法に係る諸手続きの手引き（仙台市版）法人の運営・管理編 ・市民活動お役立ち情報（全種類）
課題	継続相談に至っていない受講者について、その後の動向が不明である。チラシ送付などを通して、サポートセンターの利用を促す仕組みを考える必要がある。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業 活動力強化講座 社会を動かす広報戦略
目的	「広く、正しく、美しく（上手に）」自団体のPRができる団体を増やし、市民活動団体の活動力を強化する。
実施概要	実施日時：2014年8月24日（日）14:00 ～ 16:00 会場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5 講師：横尾 俊成 氏 （NPO 法人グリーンバード代表 港区議会議員） 参加人数： 24 名 内 容： 戦略的に団体のブランディング、広報を行い、共感を呼んでいる「NPO 法人 green bird」代表の横尾俊成さんを講師に迎え、green bird の広報戦略を事例にNPOの広報と団体のブランディングについて伝える。 また、クラウドファンディングやコミュニティ・オーガナイズिंगなどの最新情報について紹介する。  
成果	・全国的に活動する団体の講師を迎えたことで、ブースを卒業した団体などの参加が得られ、質の高い講座を行うことが出来た。 ・団体のブランディングの考えや最新情報について情報提供できた。 ・参加者同士で広報の悩みをシェアすることにより、広報のお悩み解決のきっかけ作りになった。
課題	・広報に対して講座の希望は多いものの「広報戦略」という内容で参加を踏みとどまった団体もいたので、初心者向けの講座を工夫する。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業 活動力強化講座 助成金申請と会計入門
目的	・初めて助成金獲得をめざす団体、助成金を獲得した団体が、よりよい申請書・よりよい報告書を提出できるよう支援する。 ・助成金申請・助成金報告をするにあたり、適切な会計処理をするための基礎を学べる機会を提供する。
実施概要	実施日時：2014年11月8日（土）13:30 ～ 16:30 会 場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5 講 師：鈴木 祐司 氏 （公益財団法人地域創造基金さなぶり 専務理事・事務局長） 参加人数： 21 名 内 容： ○会計入門～助成金申請と会計処理～ ・助成金申請の際の経費の計算 ・助成金の報告時に困らない会計処理とは ○成金申請 ・活動資金としての助成金の性質や特徴 ・資金提供者が本当に知りたい情報 ・事業報告書の作り方とは
成果	・市民活動団体・NPOにとっての活動資金源としての助成金の性質・特徴を伝えられた。 ・助成金報告書作成時に役立つ会計処理の基本について伝えられた。 ・助成する側の考えを聞くことにより、助成金申請がなぜうまくいかないのかの理解につながった。参加団体の活動の見直しや団体の伝え方のステップアップの取り組みにつなげられた。 ・参加者の意見を聞きだしながらの講座展開を行ったため、多様なニーズに対応できた結果、満足度が高い講座となった。
課題	・初めて申請を行う団体をターゲットにしたが中堅団体の参加が多かった。 - ハードルを下げた申請入門の講座があってもよい。 ・満足度が高くニーズもあるので継続開催を検討する。 ・今回同様、助成金申請を行う時期に合わせた開催が必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業
	活動力強化講座 広報のツールを作ろう
目的	広報にお悩みの団体や NPO 法人向けに、チラシと団体パンフレットの作成を実践する
実施概要	実施日時：2015 年 1 月 17 日（土）13:30 ～ 16:45 会場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室 5 講師：サポセンスタッフ 参加人数： 12 名 内 容： ・ 明日から使えるイベントチラシ作成 ・ 会費や寄附を募集する団体パンフレット作成
	
成果	・ 伝えることと紙面構成の作成のコツを実践的なワークショップ方式で伝えることが出来た。 ・ 会費や寄附を募集するためには団体の情報を整理しなければならないことを実習できた。 ・ それぞれの参加団体のお悩みにアドバイスすることで、参加団体のニーズに対応することが出来た。 ・ 講座内容を整理してサポセン機関紙「ぱれっと」にて「広報のコツ」を掲載することで、参加できなかった団体へも情報提供することができた。
課題	・ 講座内容を「お役立ち情報」として提供する予定。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名

交流促進事業

マチノワコーディネート

目的

協働による課題解決が必要な場所や団体で、当施設の資源を活かした協働のコーディネートを実施する。協働体験を通して今後の協働への意識を育み、地域や各団体における自立的な協働の取り組みを広げていく。

成果

・ 行政を中心に様々な機関と連携し、縦割りにならない形で多様な市民力支援につなげることができた。

・ 他機関や団体が主催する事業への参加／参画から関係性を作り、事業連携につなげるという基本的な流れができつつある。

実施概要

1、地域連携

概要：地域活動団体の強化や可視化する取組、また当センターの機能紹介を、地域機関や団体と連携して実施する。

目標：都市基盤である地域における市民活動の活性化を目的に、地域機関と連携した事業を継続的に実施していく。

内容：

概要	内容	日時
六郷・七郷コミネットへの参画	若林区の復興支援ネットワークであるコミネットの情報部会に参画	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
泉社会福祉センターまつりへの参加	泉区の社会福祉センターまつりに参加し、当センターの PR や出張相談を実施	平成 26 年 10 月 26 日

2、骨プロ連携

概要：骨プロ開催から 10 年が経過した。その間、本来の目的である市民活動支援情報の流通という部分が薄まり、チラシ配架システムを表す名称となってしまった。改めて市民活動支援情報の流通と、施設協働ネットワークとしてのあり方を、参画施設と共に検討する会議を年 3 回程度開催する。

目標：参画施設間で骨プロについての共通理解・認識を深め、現在のサービス改善及び施設間ネットワークの強化を進める。

内容：

概要	内容	日時
骨プロ担当学会議	骨プロに参画している 12 施設の担当者があつまる会議を開催	平成 26 年 5 月 23 日

成果	3、テーマ別連携 概要：シニア活動支援事業や若者事業の実績、地下のシアターなど機能を活かしながら、分野や世代の領域ごとの連携及び領域間の連携を拡大していく。 目標：多様な市民活動を支援する上では幅広い知識及びネットワークが必要である。当施設はそれをワンストップ的に実施するだけでなく、必要な領域知識を持つ機関との連携を深めると共に、市民活動の多様性を尊重し領域に留まらないコーディネートを実施する。		
	概要	内容	日時
	学生団体超会議の開催	当センターを利用する学生団体の交流及び学びの場として開催。	平成 26 年 10 月 25 日
	エシカルキャンパスフェスティバルへの出展	学生団体の紹介イベントであるエシカルキャンパスフェスティバルに当センターとして出展し PR を実施。	平成 26 年 11 月 23 日
	10-B0X 夏の学校座談会への協力	仙台市市民文化事業団が主催し、表現活動を行う方の連続講座への企画協力。講座の 1 回に対して当センター利用者をトークゲストとして紹介。	平成 26 年 8 月 1 日～8 月 14 日
	せんだい創業支援ネットワークへの参画	仙台市内における起業・創業の支援施設や機関が参加するネットワークに参画。人材育成事業ではネットワーク参画団体から講師を選択するなど、具体的なネットワーク活用を行った。	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
	NPO 福祉ねっと宮城への参画	介護保険法改正に向けて仙台市内の地域福祉に係わる団体のネットワークに参画。月 1 回以上、地域連携会議という関係者ネットワーク会議に参加し、地域福祉の現状把握及び相談会企画への協力を実施した。	平成 26 年 10 月 22 日～平成 27 年 3 月 31 日
課題	・ 107 万都市に一つしかない施設として、地域機関等と連携しながら市民活動の活性化や、協働の取り組み促進を行う必要がある。 ・ 地域や他機関との連携が深まる一方、他機関との調整など事業運営に関する労力は高くなるため、効率的かつ効果的な運営を施設全体として進めていく必要がある。		
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）		

事業名	その他事業								
	ぱれっと 2014 年 7 月号 No. 179 ～15 周年特別号～								
目的	2014 年 6 月 30 日でサポセンは開館 15 周年を迎える。その記念として、開館以来、震災時も途切れることなく発行してきたサポセンのニューズレター「ぱれっと」にて、15 年の間に築いてきた市民・利用者との関係（成果）と、これから目指す姿を発信する。								
成果	・ サポセン PR ツールとして活用できるものになった →市職員新人研修、視察対応、事業などで活用 ・ 外部のデザイナーに協力を仰ぎ、7 月号のデザインだけではなく、P8 で発行するぱれっとのデザインも視野に入れ、フォーマットを作成。9, 12, 3 月号のクオリティーアップと、編集スタッフ（レイアウト・デザイン担当）のスキルアップにつながった。 ・ 掲載団体の PR ツールとして活用されている。 ・ 15 年の歴史を多くの人に知ってもらうツールとなった。								
実施概要	2014 年 7 月 1 日発行。 1. 仕様 A4 サイズ、16 ページ、フルカラー。5000 部 2. 編集構成 ・ サポートセンター利用者の活動紹介とサクセスストーリーから、サポセンがどのように利用され、どのように役立てたかを紹介 ・ 協働のまちづくり拠点であるサポセンの役割と、これからのサポセン 3. 工程 <table> <tr> <td>5 月 7 日</td><td>7 月号デザイナーミーティング（フォーマット検討）</td></tr> <tr> <td>6 月 6 日</td><td>初校</td></tr> <tr> <td>6 月 26 日</td><td>入校</td></tr> <tr> <td>7 月 4 日</td><td>発行</td></tr> </table> デザイナー：渡邊武海 印刷：（有）平野印刷	5 月 7 日	7 月号デザイナーミーティング（フォーマット検討）	6 月 6 日	初校	6 月 26 日	入校	7 月 4 日	発行
5 月 7 日	7 月号デザイナーミーティング（フォーマット検討）								
6 月 6 日	初校								
6 月 26 日	入校								
7 月 4 日	発行								
課題	部数を増やしたが、配布計画が不十分であった。配布先、配布計画を見直すきっかけとなった。								
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（現物）								

事業名	その他事業（国連防災世界会議テーマ館プレイベント）
	シリーズ「いのちと暮らしを考える～市民協働と防災～」
目的	・国連防災世界会議への機運や市民の注目度を高めていく。 ・3月の「市民協働と防災」テーマ館と関連した形で、市民の防災意識及びその手段としての協働意識の啓発を行う。
成果	・硬軟織り交ぜた連続プレイベントにより、防災世界会議に向けた機運を高めることができた。 ・各事業も定員を達成し、個別事業内容も時流や対象に合わせてタイムリーに実施できた。
実施概要	1、舞台芸術と防災（協力） 開催日：2014年11月15日（土） 会場：市民活動シアター 目的：「舞台芸術」と「震災」をテーマに、舞台芸術分野から震災に対する備えやこれからの社会の関わり方について考察する。 内容：被災地の演劇人として後世に伝える作品を残すために、仙台の劇団が結集して取り組んだ White プロジェクトを上演し、観劇後に演者、観客と共に対話の場を設ける。 参加費：無料 参加者：160名（2回上演） 備考：主催（仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団） 2、マチノワサロン「支援のかたち」 開催日：2014年12月17日（水）15:00～17:00 会場：仙台市市民活動サポートセンター 6F セミナーホール ゲスト：・協働の強化書 2013 プロジェクト 紅邑晶子氏 中尾公一氏 被災地域の協働に関する調査の概要と、非常時にどのように協働が進んだのか、または進まなかったのかの報告。 ・NPO 法人キッズドア 事務局／東北本部 片貝英行氏 NPO 法人キッズドアが仙台市健康福祉局社会課、子供未来局子育て支援課と実施した「子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業」についての報告と実施に至った経緯、実施後の波及効果について。 参加費：無料 参加者：33名（定員 30名）

	3、ハジマルフクラムプロジェクト「ゲームでひらく防災の扉」 開催日：2015 年 1 月 18 日(日)13:30～15:30 会 場：仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター ゲスト：わしん倶楽部 減災コーディネーター 田中勢子さん 内 容：ゲームや運動を通じて防災・減災の知識や心構えを楽しくこと、団体の活動紹介、発足に至った動機について何うトークと防災グッズ展示を実施。後半には、防災ゲームのひとつ「クロスロード」体験と、非常食づくりを参加者が体験した。 参加費：500 円 参加者：15 名 4、マチノワサロン「みんなの防災協定」 開催日：2015 年 2 月 17 日（火）18:00～20:00 会 場：仙台市市民活動サポートセンター 6F セミナーホール ゲスト：・浜松市内 NP0 法人災害支援連携会議 長田治義氏 静岡県浜松市における、複数の NP0 による協議会と行政との防災協定締結についての報告。 ・学校法人聖学院大学（地域連携・教育センター）芦澤弘子氏 学内に設置されたボランティアセンターと岩手県大船渡市による、学校法人と行政との防災協定の締結についての報告。 ・みやぎ夢燈花 石川健氏 大阪池田市での児童殺傷事件を教訓として、地域の学校の児童を守る活動が組織化され、次第に発展しながら、南中山地区でキャンドルイベント（池田市との連携）を開催している事例の報告。 参加費：無料 参加者：36 名
課題	・本企画の参加者が、「市民協働と防災」テーマ館や、その他パブリックフォーラムに足を運んだかの効果測定を行う術がなかった。
添付資料	☐収支計算書 ☐広報記録 ☐事業詳細 ☐その他（ ）

事業名	その他事業（ 国連防災世界会議への協力） このまちで、いのちと暮らしを考える
目的	・ テーマ館来館者、テーマ館出展者の防災意識の向上と、その手段としての情報の役割や価値、発信者の協働意識の向上。 ・ 上記対象者同士の交流が生まれ、互いに対しての認知が進む。
成果	・ 地域メディアの役割は、地域における様々な人が、まちに関わる機会をつくる「まちづくり活動」の場であるということが再認識された。また、復興まちづくりのコミュニティ構築に、多くの住民を巻き込むための手段としての役割を果たすことを確認。 ・ 災害時のネットワークについて、分野を超えた全市的なつながり、小学校区程度の地域の中でのつながり、全国的なつながりでの事例を紹介。参加者は、学生から他県の市民活動団体関係者まで年代も地域も多岐にわたり、国連防災世界会議参加者の関心に応える内容であった。
実施概要	1、地域メディア公開編集会議 ・ 日 時：2015 年 3 月 16 日（月）16:00～18:00 ・ 会 場：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター ・ 参加者：53 名 ・ ゲスト： ・ コーディネーター：一般社団法人メディアプロジェクト 佐藤和文さん ・ 話題提供者 ・ 仙台発・震災復興地域かわら版「みらいん」 岡崎裕子さん ・ 「西原（にしっぱら）新聞」 佐藤 研さん ・ 「038PRESS（おみやプレス）」 千葉富士男さん、針生英一さん ・ 「長町・ゆとり〜と」 岸田清実さん ・ 「田子のきずな通信」 林 裕子さん 2、トークイベント「つながりが育む暮らしの安心」、情報交換会 ・ 日 時：2015 年 3 月 17 日（火）16:00～20:00 ・ 会 場：仙台市市民活動サポートセンター 地下 市民活動シアター ・ 参加者：トークイベント 35 名（定員 30 名）、情報交換会 11 名（定員 50 名） ・ 報告者および報告主旨： ・ 浜松市内 NPO 法人災害支援連携会議 長田治義氏 東海地震など災害発生時に備え、スペシャルニーズに対応するため NPO 法人等が連携し、浜松市と協定を結んでいる事例を紹介。様々な分野の NPO や民間企業が連携することで、避難所に避難できない人たちの支援を行う仕組みづくりを行っている。 ・ ほっとネット in 東中田 小岩孝子氏 地域内の各種団体や市民センター、児童館、各施設等がネットワークをつくり防災に取り組んでいる事例を紹介。地道な取り組みを続けることで、ネットワークの必要性を地域が理解していく過程を体験談として報告。震災時・震災後もネットワークでの支援・防災活動を継続している。 ・ 公益財団法人日本財団 青柳光昌氏 災害時の全国的なネットワークによる支援について、震災がつなぐ全国ネットワーク、被災者と支援者をつないで支える合同プロジェクト「つなプロ」などの事例をもとに紹介。東日本大震災での経験から発展させたネットワークによる支援として、広島土砂災害におけるスペシャルニーズ調査及び支援へのマッチングについても言及。

3、展示：サポセンと 3.11

- ・ 日 時：3 月 16 日（月）13 時～21 時
3 月 17 日（火）10 時～20 時
- ・ 展示物：震災後の取り組み年表、機関紙ぱれっと、復興支援情報かわら版、『3.11 からの支援のかたち 2011／2012／2013』、『あなたの思いそれぞれのカタチ（宮城野区文化センター震災復興交流事業報告書）』、サポートセンターのブログ『サポセンブログ@仙台』の 2011 年 3 月以降の記事をプリントしたものなど
- ・ 形 式：壁面展示、テーブルでの資料閲覧など。
展示に対しての感想などをスタッフが拾い上げ、記録した。



課題

- ・ 情報交換会については、国連防災世界会議の本会議も、テーマ館企画も開催途中だったこともあり、参加者数がふるわなかった。
- ・ 国連防災世界会議は、防災について改めて考える良い機会だったが、閉幕と共に関心や取り組みが収束してしまわないよう、仕掛けを続けていくことが必要である。

添付資料

- ☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細
☐ その他（ ）